

## 18. 医学系学府

I	医学系学府の教育目的と特徴	18-2
II	「教育の水準」の分析・判定	18-3
	分析項目 I 教育活動の状況	18-3
	分析項目 II 教育成果の状況	18-35
III	「質の向上度」の分析	18-48

## I 医学系学府の教育目的と特徴

1 特定の領域に偏ることなく、社会の多様なニーズに対応でき、かつ国際的な水準の研究を推進することができる人材を輩出することを目的としている。医学専攻、医科学専攻、保健学専攻及び医療経営・管理学専攻の4専攻からなり、それぞれ学位（医学博士、医科学修士、専門職修士）を授与している。

2 この目的を達成するため、以下の通り中期目標を設定している。

- ①社会貢献できる研究マインドをもった医療人の輩出及び医学の発展を担う人材養成を行う。
- ②国際的視野をもち、国際共同研究遂行能力を備えた人材を輩出する。
- ③医療経営・管理学専攻（専門職大学院）では、保健医療の実践にあたり中心的役割を担えるよう、専門的知識を持った人材を養成する。
- ④現場の問題に対し、目的を明確にし、具体的な対策を組み立て、結果を評価し、改善する能力を育成する。

3 期待する入学者像：多様なバックグラウンドを持つ入学者を受け入れることで、「生命科学に対する情熱と明確な問題意識を持っており、また倫理性に加えて、科学的エビデンスを分析出来る論理的な思考力を持っている者」、「出身学部で取得した知識を活用して、医学の使命を達成する情熱を有し、加えて論理的に問題を解決する思考力を持っている者」、「課程修了後の現場における貢献度・創造性・実現可能性の資質と能力を有する者」の獲得を目指している

4 ディプロマポリシーの特徴：医学専攻、医科学専攻、保健学専攻では「出身学部で取得した知識と医学が融合した、独創的な先端的生命科学研究者と高度専門職業人」の養成、医療経営・管理学専攻では「医療政策、医療経営、医療管理、医療コミュニケーションについて、専門的知識を習得し、医療経営・経営管理の実践と改善において中心的役割を担える」人材の養成を目指している。修了生は高度医療・研究機関における臨床・基礎研究の継続や海外留学という進路をとっている。また、医科学専攻においては、博士課程への進学という進路をとっている。

5 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「教育においては、確かな学問体系に立脚し、学際的な新たな学問領域を重視しながら、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材を育成する。」を踏まえている。

### [想定する関係者とその期待]

修了生、学術機関及び医療機関を中心とした修了生の就職先、地域社会等の関係者から、研究マインドを持った高度医療人の輩出及び将来の医学の発展を担う人材養成について期待されている。

## II 「教育の水準」の分析・判定

## 分析項目 I 教育活動の状況

## 観点 1-1 教育実施体制

(観点に係る状況)

## 1-1-1 組織編成上の工夫

## 1-1-1-① 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

## 1) 学府・専攻の構成・責任体制 (資料 1)

医学においては基礎医学と臨床医学の密接な連携が相互の研究発展のために重要であるために、8専攻と細分化されていた医学博士課程を医学専攻に一本化し、教員及び学生の基礎医学研究と臨床医学研究の連携・融合を促進できる体制へ改編した。

## ○資料 1 学府・専攻の構成・責任体制

学府	専攻	責任部局		
医学系学府	医学	医学研究院、生体防御医学研究所、病院		
	医科学 (修士課程)	医学研究院、生体防御医学研究所		
	保健学	看護学分野	修士	医学研究院
			博士	医学研究院
		医用量子線科学分野	修士	医学研究院
			博士	医学研究院
	検査技術科学分野	修士	医学研究院	
		博士	医学研究院	
医療経営・管理学 (専門職学位課程)	医学研究院、人間環境学研究院、法学研究院、経済学研究院、薬学研究院			

## 2) 専任教員の配置状況

大学設置基準の2倍以上で大幅に上回っている (資料 2)。

## ○資料 2 専任教員の配置状況 (平成 27 年 5 月 1 日現在)

専攻	課程区分	大学院指導教員数							大学院設置基準	
		研究指導教員数					研究指導 補助教員 ※	合計	設置基準必 要教員数	うち研究 指導教員
		教授	准教授	講師	助教	計				
医学専攻	博士課程	50	40	0	0	90	43	133	60	54
保健学専攻	博士課程	17	8	0	0	25	18	43	12	4
医科学専攻	修士課程	46	42	0	0	88	38	126	12	4
保健学専攻	修士課程	17	7	0	0	24	18	42	12	4
医療経営・管理学専攻	修士課程	9	2	3	5	19	7	19	15	-
計	修士課程	72	51	3	5	131	56	187	72	58
	博士課程	67	48	0	0	115	61	176	39	8

※ (医療経営・管理学専攻においては専任教員数のうち実務経験教員数)

## 3) 担当教員配置状況

教育課程の遂行に必要な教員を十分に確保している（資料3）。

## ○資料3 担当教員配置状況（平成27年5月1日現在）

	教授	准教授	講師	助教	小計	非常勤講師	計	学生数	教員一人当たり学生数
修士課程	63	49	32	24	168	41	209	103	0.49
博士課程	67	48	35	26	176	51	227	622	2.74

## 4) 実務経験を有する教員の配置状況

教員は医師、看護師、技師などの十分な実務経験を有しており、研究教育目的を達成するために適切に配置している（資料4）。教育の責任担当者である教授・准教授のうちその専門性に応じた資格（医師、臨床検査技師、放射線技師、看護師等）と実地経験を持つ比率は59%（73/123）である。

## ○資料4 実務経験を有する教員の配置状況

医師	教授41名、准教授16名、講師10名、助教37名
歯科医師	教授1名、講師1名、助教2名
看護師	教授6名、准教授5名、講師7名、助教11名
診療放射線技師	講師1名、講師1名、助教3名
臨床検査技師	教授2名、講師2名、助教4名
薬剤師	教授1名、准教授1名、講師1名、助教3名

## 5) 組織編成に関する特徴

多数の特定教育研究講座や寄付講座を整備している（資料5）。総合性と国際性を強化し、欠員教員の補充に際しては、前任者の専門に拘らない柔軟な人事を行っている。

## ○資料5 組織編成に関する特徴（学内外との連携等）

特定教育研究講座の設置（現在2講座）	
寄附講座の設置（現在14講座）	
特定教育研究講座名	設置期間
九州連携臨床腫瘍学講座	平成24年8月1日～平成29年3月31日
次世代医療研究開発講座	平成25年11月1日～平成30年3月31日
寄附講座名	設置期間
包括的腎不全治療学講座	平成18年5月1日～平成28年3月31日
未来医用情報応用学講座	平成19年4月1日～平成24年3月31日
がん分子病退学講座	平成20年4月1日～平成29年3月31日
がん先端医療応用学講座	平成20年4月1日～平成29年3月31日
先端心血管治療学講座	平成20年4月1日～平成27年3月31日
臨床神経免疫学講座	平成21年10月1日～平成24年9月30日
外科分子治療学講座	平成22年4月1日～平成30年3月31日
分子イメージング・診断学講座	平成22年4月1日～平成28年3月31日
周産期・小児医療学講座	平成22年4月1日～平成28年3月31日
重粒子線がん治療学講座	平成22年7月1日～平成25年6月30日
人工関節生体医療研究開発学講座	平成23年2月1日～平成30年1月31日
外科集学的治療学講座	平成23年4月1日～平成29年3月31日
循環器病先端医療研究開発学講座	平成23年4月1日～平成27年3月31日
先端循環制御学講座	平成23年4月1日～平成27年3月31日
神経治療学講座	平成24年10月1日～平成27年9月30日
体表感知学講座	平成25年4月1日～平成28年3月31日
地域医療学講座	平成26年4月1日～平成29年3月31日
放射線医療情報・ネットワーク講座	平成26年4月1日～平成29年3月31日
応用病態修復学講座	平成26年10月1日～平成28年9月30日
泌尿器分子創薬学講座	平成27年3月1日～平成30年2月28日

## 6) 組織体制の改善の取組

本学の将来構想に合致した「大学改革活性化制度」によって2組織を新設した(資料6、7)。「ヒト疾患モデル研究センター」は、至適な疾患モデルの作成から高度解析技術提供支援を学府横断的に研究者へ行っている。また、「応用幹細胞医科学部門」は幹細胞の基礎研究のみならず再生医療の実用化を視野に入れた組織である。

## ○資料6 本学独自の大学改革活性化制度

大学改革活性化制度は、毎年度、部局に配置される教員ポストの1%を原資とし、大学の将来構想に合致した部局ごとの改革計画を募り、優先度の高い改革計画を全学の委員会等で審査・選定し、当該計画の実施に必要な教員ポストを再配分する制度で、平成23年度から実施している。この制度の実施により、たとえ多少の政策や財政状況の変動があっても大学が自律的に続けられる「永続性のある強靱な改革のスキーム」の構築を目指している。

## ○資料7 大学改革活性化制度の採択事例

年度	内容
平成24年度 ～ 平成26年度	<p>「動物実験施設」並びに「教育・研究支援センター」を基盤とした「ヒト疾患モデル研究センター」の新設</p> <p>趣旨・目的、必要性及び期待される成果等の概要： 近年の基礎生命科学の研究成果は周辺学術領域へ多大な影響を与えてきた。特に、医学研究では、マウスによる遺伝子破壊・改変の革新的技術が確立されたことで、各種疾患モデルマウスが作出され、その結果疾患の原因解明や治療の研究が動物個体を用いて進められるようになった。このようにマウスをモデル動物とする研究は飛躍的に発展したものの、高次生命現象を対象とする研究では、必ずしもマウスがヒトのモデルとはなり得ないことから、実験動物の高度化・中大型化は医学研究において喫緊の課題となっている。以上の観点から医学研究院附属の「動物実験施設」と「教育・研究支援センター」を拡充・再編・統合し、「ヒト疾患モデル研究センター」を設置した。本研究センターでは、遺伝子改変が容易なマウスを主要なモデル動物とする従来型の研究を推進しつつ、中大型実験動物の開発を推進することで、基礎医学研究から臨床医学研究への展開を強力に推進する。</p>
平成24年度 ～ 平成26年度	<p>「応用幹細胞医科学部門」の設置</p> <p>趣旨・目的、必要性及び期待される成果等の概要： 幹細胞学は医学・生物学領域の重要な学問分野として根付き、再生医療及び癌幹細胞を標的とした治療は、さらに向こう数十年に渡り近未来医療として発展することが考えられる。以上の認識に基づき、我々は、本学の生命科学領域を持続的に発展させるためには、早急に本学として組織的な対応が必要であるという結論に至った。 本改革計画では、今後5年以内に本学が幹細胞学・再生医療の分野で国際的イニシアティブを獲得するための基本戦略を策定し、「応用幹細胞医科学部門」を新設した。その上で、幹細胞の基盤研究における確固たる地位を確保しつつ、さらに医療応用へのトランスレーショナルリサーチを積極的に推進可能な組織基盤を確立する。すなわち、我が国における幹細胞分野のイニシアティブを短期に確保し、政策的研究資金の取得を可能ならしめ、学内の若手研究者に最先端の幹細胞教育を行い、次世代において本学の幹細胞学が世界をリードするための礎を作る。</p>

## 1-1-(1)-② 多様な教員の確保の状況とその効果

まずは採用手続きが比較的簡略な連携講座において外国人教員の採用を徐々に増やそうと試みている。女性研究員は相当に高い割合（25.6%）を維持している（資料8～10）。

## ○資料8 多様な教員の確保の取組

取組	内容
女性教員	「きらめきプロジェクト」による活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生に対しての研究者としてのキャリアパスに関する講演会等で教員志望のモチベーションを高めると共に、不安感の軽減をに勤めている</li> <li>・ 出産、育児による研究に割く時間の減少に対して研究補助員の採用支援を行っている。</li> <li>・ 産休や育休に対する代替教員の補充措置により、女性教員採用に対する研究室側が躊躇しないように配慮している。</li> </ul>
外国人教員	特定教育研究講座などでは、優秀な外国人教授を直接交渉して採用可能であり、外国人教員採用の敷居を低くする手段として活用している（例：医療イノベーション推進人材養成講座）。
寄付講座教員	医学研究院に設置した特定教育研究講座、寄付講座（資料1-1-(1)-①-E参照）において、特定の研究目的に特化し、かつ医療系とは異なる教育研究キャリアを持つ人材が多数採用されている。

## ○資料9 専任教員に占める女性教員・外国人教員（平成27年5月1日現在）

専任教員数		うち外国人教員数		総計	女性教員割合(%)	外国人教員割合(%)
男性	女性	男性	女性			
198	68	6	0	266	25.56%	2.26%

## ○資料10 専任教員（外国人教員を含む。）の年齢構成（平成27年5月1日現在）

20代	30代	40代	50代	60代	総計
0	13	73	71	29	186

## 1-1-(1)-③ 入学者選抜方法の工夫とその効果

## 1) アドミッション・ポリシー

研究能力だけでなく、医学研究者としての高い倫理性人間性を求めていることが特徴である（資料11、12）。

## ○資料11 アドミッション・ポリシー

専攻名	アドミッション・ポリシー
医学専攻（博士）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求める学生像（求める能力・適性等） 本専攻では、世界的見地から人類の健康と福祉に貢献できる人材、並びに世界をリードする医学研究者を養成することを目指している。したがって、生命科学に対する情熱と明確な問題意識を持っており、また倫理性に加えて、科学的エビデンスを分析出来る論理的な思考力を持っていることが求められる。</li> <li>・ 入学者選抜の基本方針（入学要件、選抜方式、選抜基準等） 基本的に18年の修学期間が必要である。その要件を満たさない場合は事前審査で出願が認められる場合もある。選抜方法としては、一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜からなる。選抜基準としては、英語、専門試験、面接からなり総合的に選抜を行う。</li> </ul>
医科学専攻（修士）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求める学生像（求める能力・適性等） 本専攻では、医学と他の分野の知識を融合することによって、より深く生命科学研究の進歩を理解し、世界的見地から人類の健康と福祉に貢献出来る研究者、教育者及び高度専門職業人を養成することを目指している。従って、出身学部で取得した知識を活用して、医学の使命を達成する情熱を有し、加えて論理的に問題を解決する思考力を持っていることが求められる。</li> <li>・ 入学者選抜の基本方針（入学要件、選抜方式、選抜基準等）</li> </ul>

## 九州大学医学系学府 分析項目 I

	<p>基本的に 16 年の修学期間が必要である。その要件を満たさない場合は事前審査で出願が認められる場合もある。選抜方法としては、一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜からなる。選抜基準としては、英語、生物学全般、面接からなり総合的に選抜を行う。</p>
保健学専攻(博士)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求める学生像(求める能力・適性等)</li> <li>(1)幅広い人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を有する者</li> <li>(2)保健学専攻の教育を受けるための基礎学力を持ち、博士後期課程においてより深い専門性と論理的思考方法を修得し、その成果を地域及び国際社会の健康増進に貢献する意欲のある者</li> <li>(3)保健学に対する強い興味と本質への高い追求意欲を持ち、主体的勉学と自己啓発に積極的である者</li> <li>(4)博士後期課程を修了し、将来、保健学系大学における教育者・研究者となり、国民の健康増進に寄与する強い意志のある者</li> <li>(5)科学的知識や方法論を学び、高度先進技術を修得し、保健学領域において自立した研究能力を併せ持つ実践的指導者として国民の健康増進に寄与する強い意志のある者</li> <li>(6)保健学系以外の学部及び修士課程卒業生については、保健学専攻教育を受けるための十分な能力を備えていると特に認められる者</li> <li>・入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、選抜基準等)</li> </ul> <p>基本的に、18 年の修学期間が必要である。その要件を満たさない場合は事前審査で出願が認められる場合もある。選抜方法は、一般・社会人を区別して選抜をしていない。選抜基準は、英語(小論文)、口頭試問からなり総合的に判定する。</p>
保健学専攻(修士)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求める学生像(求める能力・適性等)</li> <li>保健学専攻では、以下に掲げる人材を求めています。</li> <li>(1)幅広い人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を有する者</li> <li>(2)保健学専攻の教育を受けるための基礎学力を持ち、修士課程においてより深い専門性と倫理的思考方法を習得し、その成果を地域及び国際社会の健康増進に貢献する意欲のある者</li> <li>(3)保健学に対する強い興味と本質への高い追求意欲を持ち、主体的勉学と自己啓発に積極的である者</li> <li>(4)修士課程を修了し、将来、保健学系大学における教育者・研究者となり、国民の健康増進に寄与する強い意志のある者</li> <li>(5)科学的知識や方法論を学び、高度先進技術を修得し、保健・医療・福祉における研究マインドを持った実践的指導者として国民の健康増進に寄与する強い意志のある者</li> <li>・入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、選抜基準等)</li> </ul> <p>基本的に 16 年の修学期間が必要である。その要件を満たさない場合は事前審査で出願が認められる場合もある。選抜方法は、一般・社会人を区別して選抜をしていない。選抜基準としては、専門試験、英語(小論文)、面接からなり総合的に選抜を行う。</p>
医療経営・管理学専攻(専門職学位課程)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求める学生像(求める能力・適性等)</li> <li>本専攻では、今日的な医療問題を解決するために、目的を明確にし、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善するシステムを構築できる人材を育成することを目指しています。したがって、医療を改善する情熱や具体的な問題意識に加えて、論理的な思考力を持っていることがもとめられます。</li> <li>・入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、選抜基準等)</li> </ul> <p>基本的に 16 年の修学期間が必要です。その要件を満たさない場合は事前審査で出願が認められる場合もあります。選抜方法としては、一般選抜・医療社会人特別選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜からなります。選抜基準としては実施時期にもよりますが、英語、小論文、学力試験(専門基礎知識)、面接からなり総合的に選抜を行います。</p>

## ○資料 12 アドミッション・ポリシーを掲載した Web ページの URL

専攻名	アドミッション・ポリシーを掲載した Web ページの URL
医学、医科学専攻	<a href="http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/">http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/</a>
保健学専攻	<a href="http://www.kyushu-u.ac.jp/education/mokuhyo.pdf">http://www.kyushu-u.ac.jp/education/mokuhyo.pdf</a>
医療経営・管理学専攻	<a href="http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/">http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/</a>

## 2) 入学者選抜方法・実施の状況

留学生や社会人のための特別選抜制度を設置している他、博士課程と専門職学位課程においては、年に2回入試を行っている（資料 13、14）。

## ○資料 13 特色ある学生の受入方法

専攻名	特色ある学生の受入方法の具体例
医学専攻	博士課程と専門職学位課程においては、9月と1月の2回、入試を実施している。
保健学専攻	10月入学については、G30プログラムの下に、修士課程と博士後期課程の国際コースで、アジア各国の保健学のリーダーとなりうる人材、将来も保健学の分野において我が国と多面的で継続的な交流へと発展できる人材を教育するという理由から採用している。

## ○資料 14 留学生・社会人のための入学者選抜方法の例

専攻名	留学生・社会人・編入学生のための入学者選抜方法の具体例	
医学、医科学専攻	留学生対象	外国人留学生のための特別選抜を実施している。選抜方法としては、修士課程においては外国語（英語）（一般選抜とは別問題）及び口頭試問、博士課程においては外国語（英語）、専門試験及び口頭試問を行い、総合的に選抜している。
保健学専攻	留学生対象	修士課程と博士後期課程に、留学生のための10月入学の国際コースを設置し、一般入試と別に選抜している。
医療経営・管理学専攻	留学生対象	一般と区別せずに入試を実施している。面接や志願書も採点の対象にしており、動機付けが高く、国際貢献などの目標が明確な場合は、より高く高い評価している。 【面接や志願書も採点の対象にしており、動機付けが高く、目標が高い場合には、より高く評価している。
	社会人対象	一般と区別せずに入試を実施している。面接や志願書も採点の対象にしており、動機付けが高く、目標が高い場合には、より高い評価を行っている。

留学生・社会人など、多様な人材を確保している（資料 15）。医科学修士の入学者が平成 26、27 年度で充足率が 75%と低下しているが、求められるレベルの学生だけを合格させた結果であり、受験者数が定員を下回っているわけではない。

## ○資料 15 大学院課程の入学者選抜の実施状況

（修士課程）

医科学専攻

年度	一般選抜	外国人留学生特別選抜
平成 22 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 11 人) 入学人数( 8 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 1 人) 入学人数( 1 人)
平成 23 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 23 人) 入学人数( 18 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 2 人) 入学人数( 2 人)
平成 24 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 21 人) 入学人数( 16 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 2 人) 入学人数( 1 人)
平成 25 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 26 人) 入学人数( 21 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 2 人) 入学人数( 2 人)
平成 26 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 13 人) 入学人数( 13 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 2 人) 入学人数( 2 人)
平成 27 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 16 人) 入学人数( 10 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 5 人) 入学人数( 5 人)

## 保健学専攻

平成 22 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 26 人) 入学人数( 26 人)	募集人数( 若干人 ) 合格人数( 0 人) 入学人数( 0 人)
平成 23 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 28 人) 入学人数( 28 人)	募集人数( 若干人 ) 合格人数( 1 人) 入学人数( 1 人)
平成 24 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 32 人) 入学人数( 29 人)	募集人数( 若干人 ) 合格人数( 1 人) 入学人数( 1 人)
平成 25 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 28 人) 入学人数( 28 人)	募集人数( 若干人 ) 合格人数( 1 人) 入学人数( 1 人)
平成 26 年度	募集人数( 20 人) 合格人数( 34 人) 入学人数( 33 人)	募集人数( 若干人 ) 合格人数( 0 人) 入学人数( 0 人)
平成 27 年度	募集人数( 27 人) 合格人数( 35 人) 入学人数( 34 人)	募集人数( 若干人 ) 合格人数( 0 人) 入学人数( 0 人)

(博士課程)

## 医学専攻

年度	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
平成 22 年度	募集人数( 107 人) 合格人数( 85 人) 入学人数( 84 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 17 人) 入学人数( 17 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 8 人) 入学人数( 7 人)
平成 23 年度	募集人数( 107 人) 合格人数( 98 人) 入学人数( 96 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 21 人) 入学人数( 21 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 9 人) 入学人数( 9 人)
平成 24 年度	募集人数( 107 人) 合格人数( 96 人) 入学人数( 91 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 32 人) 入学人数( 30 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 10 人) 入学人数( 9 人)
平成 25 年度	募集人数( 107 人) 合格人数( 96 人) 入学人数( 96 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 26 人) 入学人数( 26 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 6 人) 入学人数( 6 人)
平成 26 年度	募集人数( 107 人) 合格人数( 109 人) 入学人数( 108 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 18 人) 入学人数( 18 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 4 人) 入学人数( 4 人)
平成 27 年度	募集人数( 107 人) 合格人数( 95 人) 入学人数( 91 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 25 人) 入学人数( 25 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 9 人) 入学人数( 9 人)

(博士後期課程)

## 保健学専攻

年度	一般選抜	外国人留学生特別選抜
平成 22 年度	募集人数( 10 人) 合格人数( 12 人) 入学人数( 11 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 0 人) 入学人数( 0 人)
平成 23 年度	募集人数( 10 人) 合格人数( 13 人) 入学人数( 12 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 0 人) 入学人数( 0 人)
平成 24 年度	募集人数( 10 人) 合格人数( 12 人) 入学人数( 12 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 0 人) 入学人数( 0 人)
平成 25 年度	募集人数( 10 人) 合格人数( 14 人) 入学人数( 14 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 1 人) 入学人数( 1 人)

平成 26 年度	募集人数( 10 人) 合格人数( 11 人) 入学人数( 11 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 2 人) 入学人数( 2 人)
平成 27 年度	募集人数( 10 人) 合格人数( 9 人) 入学人数( 8 人)	募集人数( 若干人) 合格人数( 2 人) 入学人数( 2 人)

## 3) 学生定員の状況

全体として定員充足を満たしている(資料 16~18)。

## ○資料 16 修士課程の専攻別の学生定員と現員(各年 5 月 1 日現在)

専攻	平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	定員	現員	充足率	定員	現員	充足率	定員	現員	充足率									
医科学	40	33	82.5	40	29	72.5	40	38	95.0	40	42	105.0	40	36	90.0	40	31	77.5
保健学	20	26	130	20	29	145	20	30	150	20	29	145	20	33	165	27	34	126

## ○資料 17 博士後期課程の専攻別の学生定員と現員(各年 5 月 1 日現在)

専攻	平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	定員	現員	充足率															
医学	428	504	117.8	428	508	118.7	428	523	122.2	428	532	124.3	428	553	129.2	428	571	133.4
保健学	10	11	110	10	12	120	10	12	120	10	15	150	10	13	130	10	10	100

## ○資料 18 専門職大学院課程における在籍学生数

(修士課程)

専攻	平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	定員	現員	充足率															
医療経営・管理学	40	44	110.0	40	44	110.0	40	50	125.0	40	48	120.0	40	46	115.0	40	44	110.0

## 4) 入試方法等に関する検討状況と改善の具体例

教育担当委員会において、毎年度、入試状況に対する検証を行い、入試科目の変更などを行った(資料 19)。医学、医科学専攻では大学院説明会の開催や雑誌広告掲載など学生募集広報活動に注力している(資料 20)。

## ○資料 19 入試方法等に関する検討状況と改善の具体例

専攻名	入試方法等に関する検討状況と改善の具体例	
医学、医科学専攻	検討状況	大学院委員会を中心に入学者受入方針に沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証し、必要があれば大学院 FD においても改善の方策を議論している。

## 九州大学医学系学府 分析項目 I

	改善事例	平成 23 年度より医学部生命科学科卒業生が修士課程に入学することを考慮し、平成 22 年度修士課程入学試験から、従来の英語試験及び面接試験に加えて生物学全般（基礎生物学、生物学統計）の試験を課すこととし、より医学系の学生を確保できるよう改善を行った。
保健学専攻	検討状況	入学試験実施委員会を開催し、入学者受入方針に沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証している。また、入学試験問題作成に当り、入試問題点検委員会を設置し、出題のミスを防ぐ入念なチェック機構が機能している。
	改善事例	一般と社会人の入試を区別せず、選抜している。英語と小論文の科目の検討を行い、英語（小論文）として、同一科目として実施している。
医療経営・管理学専攻	検討状況	選抜基準・選抜方法等については、本専攻の「入試委員会」が業務を担当している。入学試験の実施内容を、志願者数、受験科目、試験成績、合格者数等の観点から検討し、その結果を「講座教員会議」と「専攻運営会議」の場で報告し、検討している。その検討結果を踏まえ、入試会場や試験科目等の変更を行っている。
	改善事例	多様な人材を確保するため、入学者選抜試験を9月と翌年1月の前・後期に分けて実施し、前期の試験科目は英語、小論文、面接、後期は学力試験（専門基礎知識）、小論文、面接としてきた。しかしながら、後期試験合格者の英語力が問題となり、入学生の英語の学力を担保するために平成 27 年度より後期試験の学力試験でも英語の問題を出題している。

## ○資料 20 入学定員と実入学者数との関係の改善を図った具体的事例

専攻名	入学定員と実入学者数との関係の改善例
医学、医科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医科学専攻修士課程では、入学者が漸減傾向にある。</li> <li>医科学専攻修士課程における入学定員と入学者数との関係の適正化を図る方策として、早期から大学院説明会開催や学生募集の雑誌広告掲載（細胞工学・秀潤社、実験医学・羊土社）など広報活動に注力している。</li> <li>○医学専攻博士課程では適正な入学者数となっている。</li> <li>○医療経営・管理学専攻専門職大学院課程では適正な入学者数となっている。</li> </ul>
保健学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健学専攻修士課程では、適正な入学者数となっている。</li> <li>○保健学専攻博士後期課程では、適正な入学者数となっている。</li> </ul>

## 1-1-（2） 内部質保証システムの機能による教育の質の改善・向上

## 1-1-（2）-① 教員の教育力向上のための体制の整備とその効果

## 1) FD の実施状況

よりレベルの高い研究遂行のための大学院教育へ向けた FD を実施している（資料 21、22、23）。FD には学生の授業評価結果がフィードバックされ、FD のでの議論は大学委員会にフィードバックされ、研究時間の確保のための単位認定の見直しや学位審査の厳格など教育の質の向上や授業改善につなげている。

## ○資料 21 FD の実施状況

年度	開催数	参加人数	主なテーマ
平成 22 年度 医学、医科学	1 回	35 名 (教授)	大学院のあり方について
平成 22 年度 保健学専攻	12 回	51 名	英語による大学院教育 本学看護学分野における大学院教育の課題と展望
平成 22 年度 医療経営・管理学専攻	3 回	40 名	医療提供体制改革の方向(政策選択肢の検討)
			「ヒューマンエラーは裁けるか」を考える〜ヒューマンエラー、航空管制官最高裁判決そして医療の現場
			医師の説明義務と過失責任
		48 名	医療情報活動と医療重要バランズ定量化可視化の精緻化 医療従事者のストレスマネジメント 米国の医療制度改革—クリントンとオバマ—

## 九州大学医学系学府 分析項目 I

			自治体病院の経営改革—戦略経営の重要性—
		6名	高等教育機関及び公衆衛生大学院における認証評価
平成23年度 医学、医科学	1回	31名 (教授)	博士の質を高めるにはどうすればいいか：学位審査の在り方
平成23年度 保健学専攻	4回	52名	大学教育の現状と今後の在り方 新規カリキュラムについて
平成23年度 医療経営・管理 学専攻	3回	36名	Evidence-based approach を目指した医療経営管理の教育の試み
			「医療安全の次なる課題～そして安全になったのだろうか～」
			居住系サビスの現状と課題
		40名	現場におけるストレスマネジメント
			医師の患者に対する説明態様と過失責任
			電子レプトを用いた医療の評価
6名	自治体病院の経営について		
平成24年度 医学、医科学	1回	27名 (教授)	研究に対するモチベーションをあげるための方策
平成24年度 保健学専攻	4回	54名	大学病院との連携 基幹教育カリキュラムについて
平成24年度 医療経営・管理 学専攻	4回	50名	医療従事者のストレスマネジメント～マニュアル～
			電子レプトを用いた医療の評価
			地域医療の崩壊と再生策-事例から
		40名	医師-患者コミュニケーションの評価と関係の消長に伴う問題
			退院調整プログラムを通じた医療マネジメント
		6名	大学におけるマネジメント
6名	岡山大学における公衆衛生大学院設置構想について		
平成25年度 医学、医科学	1回	46名 (教授)	大学院教育につなげる学部教育について
平成25年度 保健学専攻	3回	41名	漢方看護学教育の導入について これからの検査技術科学分野について
平成25年度 保健学専攻	1回	54名	保健学科における教育方法の改善
平成25年度 医療経営・管理 学専攻	3回	50名	「米国における医療の質の対策について
			医療の質を測定する
			MAUT によるストレス対策プログラムの評価
			医療安全、そして医療の質へ～測ることができないものは良くならない～
			厚生労働省院内感染サベィランス事業データを用いた病院パフォーマンスの評価
		第6次医療法改正について	
5名	病院機能評価の現状と問題		
5名	公的データベースの研究への利用に関して		
平成26年度 医学、医科学	1回	31名	(本学医学研究院における) 英語教育・国際化への対応
平成26年度 保健学専攻	1回	47名	新 GPA 制度について
平成26年度 医療経営・管理 学専攻	3回	50名	患者満足に関する諸問題、わが国の医事訴訟の現状と問題点
			医療法改正と医療安全～医療事故に係る調査の仕組みについて～
			脳卒中の救急システムの現状と課題
			脳卒中の救急システムの現状と課題
		7名	脳卒中の救急システム
7名	感染症サベィランスについて		
平成27年度 医学、医科学	1回	20名	医学系学府における国際化に向けた現状と課題の把握と今後の対応

## ○資料 22 学生の授業評価結果の FD へのフィードバックの状況

一部の科目では、各評価項目に対する相対評価と自由記載コメントを各教員に報告するとともに「講座教員会議」及び「専攻運営会議」で報告し、その結果を踏まえ、講義内容や課題を変更した点を年報に記載して改善を図っている。改善点を記載した年報を学生に配付することでフィードバックを行っている。

## ○資料 23 FD の成果の教育の質の向上や授業改善への活用例

専攻名	FD の成果の教育の質の向上・授業改善への活用例
医学、医科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本学府における FD の結果は、W.G.、大学院委員会及び教授会の組織的な対応を通じて、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。</li> <li>○カリキュラムや授業方法の顕著な改善例としては、FD において把握された修士課程における実験時間が少ないという問題点に対して、平成 22 年度入学者から論文作成にかかる研究時間の単位認定を増やすという改善が図られた。</li> <li>○平成 22 年度開催の大学院 FD において、コースの再編について議論され、大学院委員会及び教授会での審議を経て、平成 26 年度から実施することとした。</li> <li>○平成 23 年度開催の大学院 FD において、学位審査の厳格化について議論され、大学院委員会及び教授会での審議を経て、平成 24 年度から論文審査において合否に加え、内部資料として評点を加えるようにした。その評点に基づいて修了生の表彰を行っている。</li> </ul>
保健学専攻	本学部（学府）における学生による授業評価の結果は、各教員へフィードバックすることで、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。
医療経営・管理学専攻	本専攻における教育の内容や方法を改善することを目的とした FD は、自分で工夫して行った医療経営・管理に関する講義を公開講座の形で外部に公開し、他の教員も同席して研修するもの、外部もしくは当講座の専任教員が講師となり、教育について研修するものがあり、組織的な研修等を実施している。その成果を、演習における調査研究、ケーススタディ、ケースメソッド、教材作成に役立っている。

## 2) その他教員の教育力向上のための取組(資料 24)

基礎医学系では、基礎医学系の全教授がメンバーである基礎医学部門会議で、「高い専門性を持った教員を適所に配置する」という視点からの審議を経たのち、教員選考委員会と教授会に諮る制度に改めている。

## ○資料 24 大学院課程における教育研究上の指導能力の評価に関する取組や配慮

- ・教員の採用・昇格に当たっては、教員採用基準や昇格基準に基づいて教員選考委員会で選考を行い、教授会の審議を経て決定。
- ・教育上の指導能力の評価を行うため、大学評価情報システムに基づいて、教員個人の自己点検・評価を実施している。

## 1-1-(2)-② 職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

本学部の事務職員の英語研修を実施し、平成 27 年度は TOEIC 対策講義を初級、中級（600 点コース）及び上級（800 点コース）にクラス分けを行って英語力の底上げを行った。（資料 25）

## ○資料 25 全学における職員の専門性向上のための取組と部局における効果

全学における取組	学府の実施・参加の状況	効果
(1) 医系学部事務部事務職員の英語研修	(1) 平成 26 年度 受講者 59 名 平成 27 年度 受講者初級 9 名、 中級 10 名、上級 4 名	(1) 本学部の国際化推進に向けた職員の英語力の強化が図られた。
(2) その他の研修 ・本学課長補佐研修 ・本学総務事務研修	(2) 本学で継続的に開催される左記の職種別研修、専門研修、語学研修等の各研修には、	(2) 教育研究、学生支援等の業務における職員の専門性の向上、スキルアップが図られた。また、

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学自己啓発研修</li> <li>・本学語学研修（言語文化自由選択科目）</li> <li>・本学個人情報保護研修</li> <li>・九州地区国立大学法人等テーマ別研修</li> </ul>	毎年数名の職員が参加している。	個人情報保護研修等に参加することにより、より専門的な対応が可能となった。さらに、他大学等も参加する研修に参加することで、職員間での意見交換を通じて新たな見識を得ることができた。
---	-----------------	--

### 1-1-(2)-③ 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

教育プログラムの質保証・質向上のため、種々の取組を行っている（資料 26-28）。特に教育・研究支援センターでの設備と研修の充実は、大学院生などの多くの若手研究者の基礎的及び先端的研究技術の獲得と研究の促進に貢献している（資料 29）。保健学専攻では国際交流プログラムとそのための教材開発を行った（資料 30）。

#### ○資料 26 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫

専攻名	教育プログラムの質保証・質向上のための工夫	
医学、医科学専攻	データ・資料を収集・蓄積する体制及び活用した報告書等	①本学府における教育活動の状況及び学習成果に関するデータや資料を収集・蓄積する担当組織は、大学院委員会、学務課大学院係である。 ②収集・蓄積された各種資料・データを活用したポートフォリオを作成し、学位の申請書類に含めている。
	学生からの意見聴取の取組（授業評価、授業評価以外の意見聴取、評価結果のフィードバック）	①授業評価の実施状況について、修士・博士課程においては授業評価アンケートを組織的には行っていないため、今後、検討したい。 ②授業アンケート以外のその他の意見聴取の取組として、毎年、12月に大学院FDを開催しており、教員からの意見聴取とともに意見交換を行い、その意見を基に大学院委員会及び教授会において必要事項について審議している。 ③意見聴取の結果をフィードバックする体制・組織は、大学院委員会及び教授会である。
	学外関係者からの意見聴取の取組（フィードバック体制を含む）	①倫理委員会において、医療倫理、生命倫理及び研究倫理に基づき、研究が適正に行われているか大学院生の研究テーマや内容を厳格に審査している。 ②一部の研究分野においては、外部講師を招いて、学生に研究発表を行わせ、研究内容のチェックを行ってもらっている。  <b>【自己点検・評価の活動状況と改善例】</b> ①本学府における評価結果を質の向上や改善に結び付ける取組の実施組織、責任体制等は、大学院委員会及び教授会である。 ②評価結果を踏まえた改善事例としては、学位審査の厳格化を大学院FDにおいて意見交換を行った。大学院委員会及び教授会において慎重に検討を行った結果、客観性と専門性を保つため予備調査委員の選出方法を大学院委員会で選定することとした。また、公開審査における評価基準の見直しを行うなど、組織的かつ継続的に実施している。
保健学専攻	データ・資料を収集・蓄積する体制及び活用した報告書等	①本学府における教育活動の状況及び学習成果に関するデータや資料を収集・蓄積する担当組織は、大学院委員会、保健学専攻会議である。 ②保健学専攻学生の手引き、学生による授業評価報告書を作成している。
	学生からの意見聴取の取組（授業評価、授業評価以外の意見聴取、評価結果のフィードバック）	①本学府における授業に関する学生の評価は、学務部が年2回、学生による授業評価を実施し、学生の意見を聴取している。これらの結果が教育改善のためのデータとして活用されている。 ②各年度の調査の結果から、授業の構成のまとめ「教材」「授業内容の理解」について8～9割が肯定的である。Web学習システムの利用が10%以下であるため、対面授業の参加が困難な社会人大学院生などを中心とした活用法の検討が今後の課題である。

ドバック)	<p>③意見聴取の結果をフィードバックする体制・組織は、大学院委員会である。</p> <p>大学の構成員（学生及び教職員）の意見の聴取の結果は、学生による授業評価報告書やFD報告書等に反映されている。意見聴取の結果は、報告書としてフィードバックして、実際の教育の質の改善・向上に結び付いている。</p> <p>④授業評価以外の学生・教職員からの意見聴取の例としては学内設置の意見箱「Q-BOX」を設置している（<a href="https://qbox.jimu.kyushu-u.ac.jp/post/">https://qbox.jimu.kyushu-u.ac.jp/post/</a>）</p> <p>⑤意見聴取の結果をフィードバックする体制・組織は、大学院委員会である。</p> <p>大学の構成員（学生及び教職員）の意見の聴取の結果は、学生による授業評価報告書やFD報告書等に反映されている。意見聴取の結果は、報告書としてフィードバックして、実際の教育の質の改善・向上に結び付いている。</p>	
学外関係者からの意見聴取の取組（フィードバック体制を含む）	<p>①修了生アンケートや就職先アンケートを平成25年度に実施し、修了生や就職先等の関係者からの意見聴取を行っている。</p> <p>②意見聴取の結果をフィードバックする体制・組織は大学院委員会である。学生による授業評価結果を各教員にフィードバックすることにより、教育の状況に関する自己点検・評価が行われている。保健学部門FDによる教育の質の向上、改善のための取組が行われている。</p>	
自己点検・評価の活動状況と改善例	<p>①保健学部門大学院委員会が評価結果を質の向上や改善に結び付けるための取組についての実施組織である。</p> <p>②改善例：学生による授業評価結果を各教員にフィードバックすることにより、教育の状況に関する自己点検・評価が行われている。保健学部門FDによる教育の質の向上、改善のための取組が行われている。</p>	
医療経営・管理学専攻	データ・資料を収集・蓄積する体制及び活用した報告書等	<p>①本専攻では、教育活動の状況及び学習成果に関するデータや資料を収集・蓄積する担当組織は「専攻運営会議」であり、本学府の「大学院委員会」に報告している。</p> <p>②学生による授業評価アンケートを全ての講義について毎学期実施し、「授業評価アンケート報告書」を毎年作成し、「卒業生アンケート」は3年に1回行い、年報に報告している。また、それらの結果は、「専攻運営会議」に報告し、講義やカリキュラムの変更を行い、年報に報告している。</p>
学生からの意見聴取の取組（授業評価、授業評価以外の意見聴取、評価結果のフィードバック）	<p>教育プログラムの質保証・質向上のための工夫は、学生による授業評価アンケートを全ての講義について毎学期実施しており、ほとんどの学生が回答している。授業評価アンケートの結果は、資各評価項目に関する相対評価と自由記載のコメントが各教員に報告されるとともに、「講座教員会議」及び「専攻運営会議」で報告される。その結果を踏まえて、講義内容や課題を変更した点を年報に記載するなど改善を行っている。また、その改善点は年報で「授業評価アンケートに基づいた講義内容の改善」に記載し、学生にもフィードバックを行なっている。</p>	
学外関係者からの意見聴取の取組（フィードバック体制を含む）	<p>課程を修了した修了生及び就職先に対しても、3年おきに卒業生アンケート調査を実施している。調査目的は修了生や職場の立場から、教育内容を改善することである。調査方法は、ゼミ担任教官を通して自記式の調査票を配布し、記入済み調査票は事務局である講座秘書へ返送してもらっている。修了生及び職場の上司別に回答を分けて集約し、「講座教員会議」及び「専攻運営会議」で報告している。</p>	
自己点検・評価の活動状況と改善例	<p>本専攻では、全科目において、各評価項目に対する相対評価と自由記載コメントを各教員に報告するとともに「講座教員会議」及び「専攻運営会議」で報告し、その結果を踏まえ、講義内容や課題を変更した点を年報に記載して改善を図っている。改善点を記載した年報を学生に配付することでフィードバックを行っている。改善例としては、学生の要望する医療制度改革、診療報酬についての講義を取り入れている。また、演習においては、より現場にフィードバックできる学習をしたいという要望を受け入れて、医療経営・管理を改善するための調査、ケーススタディ、ケースメソッド、教材作成などを支援している。</p>	

## ○資料 27 授業評価アンケートを行った授業科目数（平成 25 年度）

専攻名	授業科目数	授業評価アンケートを行った 授業科目数	左のうち義務化している 授業科目数
医学、医科学専攻	84	40	37
保健学専攻	54	42	42
医療経営・管理学 専攻	32	32	32

## ○資料 28 外部評価における改善のための取組事例

専攻名	概要	指摘された事項	指摘された事項に対する改善 事例
医学専攻、 保健学専攻	九州の 12 大学が参加し、本学が主幹校を務める九州がんプロ養成基盤推進プランの外部評価 評価対象期間： 平成 24 年 4 月～平成 27 年 3 月	(1) 在学者数、修了者数、資格取得者数の目標が達成できていない大学が見受けられる。  (2) がんプロの学生にアンケート調査を実施し、課題を確認すること。	(1) 学生を対象とした公開講座等を大学間で連携して開催し、本プランの認知度を高める取組を行い、本プランを目指す学生数の増加を図る。 (2) 平成 27 年度に全学生を対象にアンケートを実施する。
保健学専攻	評価機関：医学系学府保健学専攻修士課程外部評価委員会 実施時期：平成 21 年 11 月～22 年 3 月	国際視野で活躍する、保健学における指導的人材育成にむけて発展・充実が期待される。	・「国際保健学」を新設し、国際化の基礎教育の強化を行った。 ・国際的視点でがん看護に関する研究を行う「がん看護研究者養成コース博士後期課程を開始した。
医療経営・ 管理学専攻	評価機関：大学基準協会公衆衛生系専門職大学院認証評価委員会 評価対象期間： 平成 21 年 4 月～平成 25 年 3 月	地域の病院等で活躍する医療者であっても、大学院修士レベルの国際的視野を持つプロフェッショナルの人材を養成する観点から、英語の読解力涵養の重要性を学生に正しく伝え、一定程度の英語能力を担保する必要がある。	平成 27 年度より後期試験の学力試験のなかで英語の問題を出題している。また、平成 27 年度より選択科目として医学英語を採用している。医学英語は前・後期通年選択専門科目であり、4 単位である。なお、従来から講義やゼミでは英語の文献を用いている。

## ○資料 29 九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト (P&amp;P) C タイプ：教育研究システム改革プログラム支援採択状況

採択年度	プログラム名	概要
平成 21 年度	小児低侵襲治療の教育・研究プログラムの確立ーアジアにおける小児医療水準の向上を目指してー	2009年にこれまでの小児外科医の一般的なトレーニング効果に関する解析を行い、技術向上のためのデータを洗い出したうえで、2010年の研究では小児外科医に特化したモデルを作成した。このモデルをトレーニングコース受講生及び講師にタスクとして課しその結果を解析したところ、技術評価モデル及びトレーニングモデルとして妥当性に問題のないことを検証・証明した。
	内視鏡外科手術における教育システム基盤の構築	安全な内視鏡外科手術を行うための教育・技術評価システムの基盤を構築することを目的とし、本学病院内視鏡外科手術トレーニングセンターにて講義、ボックス訓練、VRシミュレータ訓練、動物による手術訓練から構成される教育カリキュラムを作成し、一般外科医や初心者(医学生、研修医)向けにセミナーを開催した。また、独自の技術評価タスクやシミュレータを開発し、その有用性を評価した。一般外科医向けの基本手技修得セミナー(スタンダードコース)を9回行った。初心者向け教育セミナー(ベーシックコース)を2回行った。また、特定の手術手技に特化したアドバンスコースとして消化管吻合術を1回、単孔式内視鏡手術を3回行った。技術評価タスクでは、トレーニング効果の判定が可能であり、トレーニングの継続することが重要であることが明らかとなった。技術評価シミュレータは、ベテラン外科医と初心者を判別することが可能であった。
	教育・研究支援セン	本学医学研究院内に設置されている教育・研究支援センター

## 九州大学医学系学府 分析項目 I

	ターによる研究支援活動の拡充と若手研究者の先端技術獲得支援	の研究機器の拡充を行うと共に、技術職員の技術向上を行った。また、各種機器の利用者講習会を多数開催し、DNA塩基配列決定、DNAマイクロアレイ解析の受託業務を行った。
平成 23 年度	動物実験に関するコンプライアンス確保を目指した国際的教育訓練プログラムの構築	動物実験の適正な実施とそれらを通じた関連分野の研究推進のため、近代的動物実験実施場所の確保とコンプライアンス実践のための組織の構築、さらには大学のグローバル化に伴う国際的教育プログラムの構築が緊急課題となっている。そこで、本学における動物実験のコンプライアンスに関する国際的教育訓練プログラムを構築することを目的として、上記緊急課題への提言と動物実験に関する教材の開発を実施した。
平成 24 年度	教育・研究支援センターによる先端的研究の推進と若手研究者の育成	教育・研究支援センターの研究支援業務の充実及び拡大については、センター利用者数が平成23年度12,600人から平成24年度13,626人、平成25年度16,886人にまで増加した。また、技術職員による機器操作技術の個別講習が行えるようになり、素早い機器利用体制が整い利用者数が大幅に増加した。
※P&P（教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト）は、一定の期間、研究費等の重点配分を行い、教育と研究の一層の発展を図ることを目的とする九州大学独自の研究支援制度。集中的に支援することで、研究の一層の発展を促し、新たな競争的資金の獲得の原動力となっている。		

## ○資料 30 教育の質向上支援プログラム（EEP）採択状況

採択年度	部局	取組
平成 21-23 年度	保健学専攻	<p>課題：保健学リーダー養成海外FDプログラム 本取組では保健学教育の国際化と情報化をさらに進めることを目的とした。すでに交流を始めている米国や東アジア諸国、韓国、中国などの大学へ継続的に教員を派遣し、国際的視野に立った保健学教育についての情報交流を大学間並びに大学医療現場間で行うとともに教材の共同開発を行う。また ICT を活用して教員と学生の双方にとって効率的で有用な保健学教育のシステムを構築する。</p> <p>実績：海外派遣件数：アメリカ2件、英国、ベトナム、マレーシア、台湾各国との情報交換ならびに貴重な日本の経験を生かした英語教材を作成し、国内外に情報を発信した。具体的には、東日本大震災と原発事故による災害・放射線被ばくに対する関心の大きいことから災害医療や医療に関する放射線被ばくについて上記3分野を網羅する英語教材を作成した。</p>
※平成 21 年度から実施している教育の質向上支援プログラム（EEP）は、中期目標・中期計画に掲げる教育に関する目標・計画の達成に資する部局等の主体的な取組を支援することにより、教員及び組織の教育力の向上を図り、本学の教育改革を推進することを目的とするものである。		

（水準）

期待される水準を上回る

（判断理由）

組織編成上の工夫については、専任教員の配置数は大学院設置基準を2倍以上と大きく上回っている。さらに、大学改革活性化制度による新設2部門、14の寄付講座、2つの特定教育研究講座などを利用して、時代の要請に対応した研究分野への機動的な対応が可能になっている。女性教員に関してはその比率は25.56%であり、本学の第2期中期目標に掲げている10%を大きく上回っている。

教員による新たな教育プログラムの改善に向けた多様なテーマのプログラムが採択されており、時代に即した教育体制構築へ柔軟に対応している。

これらの実績は、高度医療人及び医学研究人材養成のための教育組織に関係者が期待している一般的な教育研究体制の水準を大きく上回るものである。

## 観点 1-2 教育内容・方法

(観点に係る状況)

## 1-2-(1) 体系的な教育課程の編成状況

## 1-2-(1)-① 教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

カリキュラム・ポリシーを定めて、一般に公開している (資料 31、32)。特に、医学専攻では一専攻に 4 つの教育コースを設置することで、各学生の目的に応じた多様性のある教育を提供できるという特色がある (資料 33)。

## ○資料 31 各専攻のカリキュラム・ポリシー

専攻	カリキュラム・ポリシー
医学専攻 (博士)	<p>◇教育課程の特色、内容・方法</p> <p>①臨床研究に従事する可能性のある学生を対象に 1 年間で学べる臨床研究専門教育コースを設け、講義だけでなく、グループワーク、演習、見学など、体験を重視した実践的教育を行う。②歴史教育と倫理教育を徹底する。③大学院修了後、速やかに自立できる基礎研究者の養成システムを強化する。</p> <p>◇研究指導体制</p> <p>学生のモチベーションと出身学部において修得した知識・技術を重視し、学生が希望する研究室の指導教員が決定する。また、学生の研究内容によっては配属教室以外の指導教員が指導を行うこともある。</p> <p>◇修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準を策定し、シラバス、新入生説明会等で周知している。なお、一部ポートフォリオを導入し、論文の評価と同時に、日々の学習到達度や様々な角度からの評価等、学術活動の全てについて総合的な評価を行う。</p>
医科学専攻 (修士)	<p>◇教育課程の特色、内容・方法</p> <p>①医学部教育のうち、基礎医学の研究者、教育者、高度専門職業人として必要とされる体系的・効率的・集中的な教育</p> <p>②出身学部で修得した知識及び技術を医学の分野で効果的に活かす教育及び研究指導</p> <p>◇研究指導体制</p> <p>学生は原則として博士課程に進学するものとし、修士課程 2 年・博士課程 4 年の一貫教育を行う。指導に当たっては、学生のモチベーションと出身学部において修得した知識・技術を重視し、希望進路と教員の能力・適正の評価を基に指導教員を決定し、研究室に配属する。学生は、広く医学の基本を習得した後、医科学ゼミナールの履修、研究指導を通じ修士論文を作成する。</p> <p>◇修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>授業の方法・内容、1 年間の授業計画等についてシラバスに表記し、それに沿って授業を実施している。成績の評価は、出席率、レポート提出による学習到達度等を基に判断する。</p>
医療経営・管理学専攻	<p>◇教育課程の特色、内容・方法</p> <p>疫学・生物統計学等を基盤に欧米の公衆衛生大学院の中核科目である医療政策・医療経営・医療管理の分野に、新たに医療コミュニケーションの分野を加えて構成し、医療・保険に関する幅広い問題について特色ある総合的な教育を行うため、次の編成方針でカリキュラムを編成する。</p> <p>①専門職大学院の理念を踏まえる。</p> <p>②医学・医療に関する基礎知識の上に立って専門教育を行う。</p> <p>③学術研究に基づく研究体制を基盤に、極めて実践的な教育を行うため、大学教員と実務経験者の教員の授業を組み合わせる。</p> <p>④ケーススタディ、討議、現地調査を多く取り入れた実践的内容の授業を実施する。</p> <p>◇授業の方法・内容</p> <p>1 年間の授業計画についてシラバスに表記し、それに沿って授業を進める。成績の評価については、出席率、レポート、筆記試験等により総合的に判断する。</p> <p>◇研究指導体制</p> <p>学生の希望のコースの担当教員により指導教員が決定します。ただし、研究内容によっては他のコースの指導教員が指導を行うこともあります。</p> <p>◇修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>授業の方法・内容、1 年間の授業計画等についてシラバスに表記し、それに沿って授業を実施している。成績の評価は、出席率、レポート提出による学習到達度等を基に判断します。</p>

## ○資料 32 カリキュラム・ポリシーを掲載した Web ページの URL

専攻名	カリキュラム・ポリシーを掲載した Web ページの URL
医学、医科学専攻	http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/
保健学専攻	http://www.kyushu-u.ac.jp/education/mokuhyo-d.pdf
医療経営・管理学専攻	http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/
※ アドミッション・ポリシーの記述中に併記。	

## ○資料 33 教育目的とカリキュラム・ポリシーの関係において特筆すべき事項

専攻名	教育目的とカリキュラム・ポリシーの関係において特筆すべき事項
医学、医科学専攻	「医学に関する社会の多様なニーズに応える人材を組織的に養成する」という教育目的の下、医学専攻においては歴史教育と倫理教育を基盤として、臨床研究・基礎研究それぞれに特化した教育システムを整えることをカリキュラムポリシーとして設定し、目的の達成を図っている。そのうえで特筆すべき事項として、医学専攻では従来の7つの専攻を一つの専攻にまとめ、基礎医学と臨床医学が連携した教育体制とし、中に4つの教育コースを設定することで、各学生の目的に応じた教育を提供することができている。 また、医科学専攻においては、出身学部で修得した知識及び技術を医学の分野で効果的に活かすとともに、医学生命学の教育研究のうち、基礎医学の研究者、教育者、高度専門職業人として必要とされる知識の蓄積のために体系的・効率的・集中的な講義に基づく教育を行っている。一方で特筆すべきは実社会で重要な研究技術、思考能力を養成すべく、明確な研究テーマを与えて研究を行わせることを特に重視したカリキュラムとなっていることである。研究活動の中で直面する個別に必要な具体的解析技術を自発的に探究したりするなどの問題解決能力の獲得をサポートすることで上記カリキュラム・ポリシーの目的の達成を図っている。
保健学専攻	各専攻別に教育目的に沿って、カリキュラム・ポリシーを明確に定めている。また、学位プログラムを定めている。
医療経営・管理学専攻	教育目的に基づき、明確に定めている。

## 1-2-(1)-② 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

特に、専門的研究能力のみならず汎用的能力と倫理性の向上に力を入れている(資料 34-36)。

## ○資料 34 各専攻のディプロマ・ポリシー

専攻	ディプロマ・ポリシー
医学専攻 (博士)	○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される ・ 特定の領域に偏らず、社会の多様なニーズへの対応と国際水準での研究推進  到達目標 A 知識・理解 ・ 自らの研究領域に活かすための総合的な知識の修得と理解 － 研究領域に関する歴史、現状、展望 － 研究の理論的、倫理的、法的根拠 － より洗練され国際化した研究の方法論  B 技能 B-1 専門的能力 ・ 幅広い知識に基づく高度な研究能力 ・ 良質な研究の企画、立案、遂行 ・ 国際的に著名な英文雑誌への成果発表  B-2 汎用的能力 ・ 多彩な手技や知識の積極的な習得 ・ 課題探求・問題解決能力 ・ 自己啓発への積極性と新しい領域への旺盛な挑戦意欲

	<p>C 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の生命への興味と生命科学関連領域の研究への情熱</li> <li>・ 加速度的に進歩する研究の包括的な把握</li> <li>・ 多様な価値観を持つ他の研究者との切磋琢磨と研究のより効率的な推進</li> <li>・ 大学院修了後に速やかに自立でき、高い研究倫理と生命倫理を備える国際的な指導的立場の研究者への志向</li> </ul>
医科学専攻（修士）	<p>○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出身学部で取得した知識と医学が融合した、独創的で先端的生命科学研究を推進</li> <li>・ 出身学部で取得した分野の知識に、専門的医学知識が加わった高度専門職業人として活躍</li> </ul> <p>到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素養としての基礎的医学知識を習得</li> <li>・ 医学と他の分野の知識を融合することによって、より深く生命科学の進歩を理解</li> </ul> <p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒトの生命現象を定量するための様々な手法の理解及び実践</li> <li>・ 生物統計学の理解及び実践</li> </ul> <p>B-2 汎用的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理的に問題を解決する思考力</li> <li>・ 研究成果を適切にまとめ、明解に発表できるプレゼンテーション力</li> </ul> <p>C 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際的英文雑誌に研究成果を発表することの重要性の理解</li> <li>・ 世界的見地から人類の健康と福祉に貢献する使命感</li> <li>・ 出身学部で取得した知識を活用し、医学者として新しい分野を切り開く挑戦意欲</li> </ul>
保健学専攻（博士後期）	<p>●看護学分野</p> <p>知識・理解について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学的知識や方法論を学び、より深く科学的、専門的、論理的に思考できる。</li> <li>・ 専門領域の包括的かつより深い専門的知識や技術を説明できる。</li> <li>・ 高度先進技術に関する知識を理解し応用できる。</li> <li>・ 英語での学術的情報を理解し、かつ自身の成果を発信できる。</li> </ul> <p>専門的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門領域で自立して研究できる。</li> <li>・ 専門領域で自立して教育・指導できる。</li> </ul> <p>汎用的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度化する医療に対応できる。</li> <li>・ 高齢化・情報化などの社会の変化に対し、自らの専門領域における知識・技術を活用して対応できる。</li> <li>・ 国際的に活躍できる。</li> </ul> <p>態度・志向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊かな人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を身につける。</li> <li>・ 保健学における新たな知的資源及び科学領域を創出する意欲と、それを広く地域や国際社会に還元する姿勢を持つ。</li> <li>・ 人々の健康増進に寄与する強い意志を育み自己研鑽できる。</li> </ul> <p>●医用量子線科学分野</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究計画の立案、倫理問題の考察、データの収集、結果の解析及びその解釈と考察などを行うことにより深い洞察力を養い、国内外にむけて積極的に情報を発信する能力を高め、独立して研究を行う能力を獲得する。</li> <li>2) 医用量子線科学分野における実践活動の質的向上及び新たな人材育成に貢献するために、同領域における最新の知識と科学的研究方法を修得し、自立した研究遂行能力を獲得することにより、保健学領域の大学及び大学院または医療機関において、教育及び創造的研究を行う教育者・研究者となり得る素養を獲得する。</li> <li>3) 医用量子線科学分野における高度な知識及び高度先進技術を修得し、グローバル化社会における保健医療の実践活動において自立した研究遂行能力を有し、的確な判断力・洞察力を身につけた専門分野の管理者・指導者を目指して、研究マインドを有する</li> </ol>

	<p>実践的指導者として活躍できる素養を獲得する。</p> <p>4) 最新の医学と先端的な物理工学的原理に基づく診断・治療機器システムの開発に携わる専門的な知識をさらに高め、放射線技術学、医学物理学に基づく検査機器システム、診断支援システム等の開発に携わる企業などで開発者として発展できる素養を獲得する。</p> <p>●検査技術科学分野</p> <p>知識・理解について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療並びに社会における臨床検査技師の役割と使命について理解する。</li> <li>・医療施設における医療情報システム並びに検査情報システムについて理解する。</li> <li>・臨床検査で利用する測定装置や測定試薬の原理を理解し、検査技術の改良・工夫ができる知識を身につける。</li> <li>・各種臨床検査及び検査結果の意味について理解し、論理的に病態を説明できる。</li> <li>・臨床検査室の世界的な動向についての知識を身につける。</li> </ul> <p>専門的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報通信技術並びに臨床検査データ情報の標準化の知識を身につける。</li> <li>・専門領域の外国語論文を読み、研究・開発に応用できる幅広い知識を身につける。</li> <li>・研究・開発するための応用力を身につける。</li> </ul> <p>汎用的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査室の現状を理解し、実践的現場の検査技術向上に必要な知識を身につける。</li> <li>・研究・開発に必要な情報収集能力を身につける。</li> <li>・臨床検査データ標準化の意義を理解し、その手法について必要な知識を身につける。</li> <li>・専門領域において自分の意見を述べ、発表でき、議論する能力を身につける。</li> <li>・外国語でコミュニケーションや発表する語学力を持ち、国際的に活躍できる能力を身につける。</li> </ul> <p>態度・志向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療を推進する立場から、異なった分野の人とコミュニケーションできる能力を身につける。</li> <li>・課題について積極的に他者と共に取り組む協調性を身につける。</li> <li>・専門分野のみならず、医学・医療全般に対する幅広い興味・関心を常にもつ。</li> </ul>
保健学専攻(修士)	<p>●看護学分野</p> <p>知識・理解について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・医療・福祉の多様な課題を包括的に理解できる。</li> <li>・専門領域の研究に必要な科学的知識や方法論を学び、科学的・論理的に思考できる。</li> <li>・専門領域の基盤的なかつ包括的専門的知識や技術を説明できる。</li> <li>・高度な先進技術に関する知識を理解し応用できる。</li> <li>・英語での学術的情報を理解し、研究に活用できる。</li> </ul> <p>専門的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門領域で自立して研究できるための基礎的能力を身につける。</li> <li>・専門領域で自立して教育・指導できるための基礎的能力を身につける。</li> </ul> <p>汎用的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度化する医療に対応できる能力を身につける。</li> <li>・高齢化・情報化などの社会の変化に対し、自らの専門領域における対応のあり方について考察できる。</li> <li>・国際的に活躍できるための基礎的能力を身につける。</li> </ul> <p>態度・志向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を身につける。</li> <li>・保健学に対する強い興味と本質への高い追究意欲、それを広く地域や国際社会に還元する姿勢を持つ。</li> <li>・人々の健康増進に寄与する強い意志を身につける。</li> </ul> <p>●医用量子線科学分野</p> <p>1) 医用量子線科学分野の幅広い知識と新しい物理・工学的理論に基づいて、将来大学などで放射線技術学、医学物理学などの分野の教育及び創造的な研究を行う教育者・研究者として寄与できる素養を獲得する。</p> <p>2) 放射線技術学、放射線医学、医学物理学の深い知識を習得し、修了後さらに専門的な知識を蓄積することにより、将来臨床現場における実践的指導者として活躍できる素養を獲得する。</p> <p>3) 新しい物理工学的原理に基づく診断・治療機器システムの開発に携わる放射線機器メーカーの開発や放射線防護並びに管理の専門家として、発展できる知識と技術を習得する。</p>

	<p>4) 研究成果を国内に向けて情報を発信する経験を積む。</p> <p>●検査技術科学分野 知識・理解について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療におけるチーム医療の意義と重要性を理解する。</li> <li>・基礎的医学知識を基盤として、各臨床検査を行う上での応用的知識を身につける。</li> <li>・臨床検査の医療における目的並びに立場を理解し、検査技術向上の必要性を理解する。</li> <li>・臨床検査における課題を理解し、さらなる質的向上を図る知識を身につける。</li> <li>・医療における情報通信と検査データの標準化の意義を理解する。</li> </ul> <p>専門的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な情報通信技術について理解し、臨床検査情報の重要性を身につける。</li> <li>・専門領域の外国語論文を読み、研究・開発に活用できる基礎知識を身につける。</li> <li>・研究・開発するための基礎知識を身につける。</li> </ul> <p>汎用的能力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の臨床検査の状況を理解し、医療の充実に貢献する意識を身につける。</li> <li>・情報収集能力とそれを活用する能力を身につける。</li> <li>・専門領域の知識をもとに、医療におけるチーム医療の一員としての立場を理解する。</li> <li>・自己の専門領域の知識を説明し、発表する能力を身につける。</li> <li>・人の意見を聞いて自己の意見をもち、討論することができる。</li> </ul> <p>態度・志向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に周囲の人とコミュニケーションできる能力を身につけ、議論できる能力を養う。</li> <li>・医療における他分野の役割を理解し、共通する課題について共に取り組む協調性を身につける。</li> <li>・医学・医療全般に対する興味・関心を養い、自己の考えをもつ。</li> </ul>
医療経営・管理学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念・目標 医学研究院の主な目的である「医学・医療領域の人材育成を通じて、国際社会並びに地域社会に貢献すること」並びに「生命科学研究の進歩を理解し、世界的見地から人類の健康と福祉に貢献できる研究者及び専門医師に必要な基礎知識の習得を図ること」に沿って、医学と多くの他分野の知識と経験を融合し、かつ統合することにより、「人の健康と福祉の増進」という医学の使命をさらに高いレベルで達成するための多様な人材を育成します。</li> <li>・養成する人材像 専門化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」をもって享受し、人生を過ごせるよう統合・調整・組織化できる高度な専門職業人の育成を目的としている。</li> <li>・修了認定・学位授与に関する方針 医系学生、非医系学生ともに、2年以上在籍し、指定の授業科目から30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けること。</li> </ul>

## ○資料 35 各専攻のディプロマ・ポリシーを掲載した Web ページの URL

専攻名	ディプロマ・ポリシーを掲載した Web ページの URL
医学、医科学専攻	<a href="http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/">http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/</a>
保健学専攻	<a href="http://www.kyushu-u.ac.jp/education/mokuhyo-d.pdf">http://www.kyushu-u.ac.jp/education/mokuhyo-d.pdf</a>
医療経営・管理学専攻	<a href="http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/">http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/</a>
※ アドミッション・ポリシーの記述中に併記。	

## ○資料 36 教育目的とディプロマ・ポリシーの関係において特筆すべき点

専攻名	教育目的とディプロマ・ポリシーの関係において特筆すべき点
医学専攻	教育目的の「医学に関する社会の多様なニーズに応える人材を組織的に養成する」を受けて、ディプロマ・ポリシーでは、獲得されるべき資質として、汎用的能力、国際的能力、倫理性にも重点を置いている。
保健学専攻	学位プログラムにおける教育目的は、「看護」「放射」「検査」の分野ごとに細かく定めている。
医療経営・管理学専攻	専門化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」をもって享受し、人生を過ごせるよう統合・調整・組織化できる高度な専門職業人の育成を目的としてお

	り、所定の単位を修得し、最終成果物の審査に合格することを条件として、学位を授与している。
--	--

## 1-2-(1)-③ 学位論文の審査基準

学位論文の審査基準は明文化し（資料 37、39、40）、Web サイトを通じても周知している（資料 38）。

## ○資料 37 各専攻の学位論文の審査基準

専攻名	学位論文の審査基準
医学専攻 (博士)	<p>(審査体制)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学位論文の審査は、大学院委員会及び学府教授会において予備調査資格を有すると認められた者について、公開による学位論文予備調査会を開き、その結果合格と認められた者について、学府教授会に諮り、学位を授与するか否かを決定する。</li> <li>2. 学位論文予備調査は、主査 1 名及び副査 2 名の審査委員の合議で行う。</li> <li>3. 学位論文予備調査委員は、提出された学位論文の内容について、その専門性を考慮し、教授会構成員の教授から、大学院委員会において選出し、学府教授会において決定する。</li> <li>4. 予備調査委員の選出には、病院長、指導教員及び提出論文の共著者は含まないこととする。</li> </ol> <p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究主題の背景について正しく理解し、その先行する研究に対して、精確な読解や的確な評価が行われているか。</li> <li>2. 研究主題探求のための方法論について正しく理解し、その結果、適切な理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは情報収集を行っているか。</li> <li>3. 研究主題について、その研究の将来の展望を十分に説明できるか。</li> <li>4. 学位論文予備調査会において、予備調査委員の質問の半分以上に対して、適切に回答することができるか。</li> </ol> <p>(評価基準)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上記 1～4 の各評価項目について該当の有無を判定したうえで、総合的に A・B・C・D の 4 段階で評価を行い、予備調査委員全員が C 以上の評価を与えた者を予備調査合格とする。</li> </ol>
医科学専攻 (修士)	<p>(審査体制)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学位論文の審査及び最終試験は、本学府教授会において選定された論文調査委員 2 名（主査 1 名、副査 1 名）により行う。</li> <li>2. 学位論文の審査及び最終試験の合格又は不合格は、論文調査委員の報告に基づき、本学府教授会が決定する。</li> </ol> <p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究主題探求に際して、その理論や背景を正しく理解しているか。</li> <li>2. 研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法について正しく理解し、適切に運用しているか。</li> <li>3. 問題設定から結論に至る論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。</li> <li>4. 研究内容の発表に際して、論理的な説明ができているか。</li> </ol> <p>(評価基準)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上記 1～4 の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。</li> </ol>
保健学専攻 (博士後期)	<p>(審査体制)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学位論文の審査は、大学院委員会及び教授会（保健学専攻会議）において予備調査資格を有すると認められた者について、公開による学位論文予備調査会を開き、その結果合格と認められた者について、教授会（保健学専攻会議）に諮り、学位を授与するか否かを決定する。</li> <li>2. 学位論文予備調査は、主査 1 名及び副査 2 名の審査委員の合議で行う。</li> <li>3. 学位論文予備調査委員は、提出された学位論文の内容について、その専門性を考慮し、教授会構成員の教授から、教授会（保健学専攻会議）において選出し決定する。</li> <li>4. 学位論文予備調査委員の選出には、指導教員及び提出論文の共著者は含まないこととする。</li> </ol> <p>(評価項目)</p>

	<p>予備調査の公開審査及び学位審査の最終試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の背景や目的が明確であるか。</li> <li>2. 研究課題に関する知識の整理がなされているか。</li> <li>3. 研究の進め方や研究方法について吟味がなされているか。</li> <li>4. 発表は研究結果を適切に表現しているか。</li> <li>5. 発表は論理的に分かりやすく構成されているか。</li> <li>6. ポートフォリオ目録（活動記録）を作成しているか。</li> </ol> <p>博士論文</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の背景となる当該領域の問題を的確に把握しているか。</li> <li>2. 研究の目的が申請された学位に対して妥当なものであるか。</li> <li>3. 研究方法、論証方法が適切であり、具体的な分析・考察が為されているか。</li> <li>4. 論文の論理構成及び記述（本文、図表、引用文献など）が十分かつ適切であるか。</li> <li>5. 研究の目的が達成されているか。</li> <li>6. 当該領域において国際的に新規性・独創性が認められているか。</li> </ol> <p>（評価基準） 上記の評価項目すべてについて、博士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。</p>
保健学専攻（修士）	<p>（審査体制）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学位論文の審査及び最終試験は、大学院委員会において選出し、教授会（保健学専攻会議）において決定された論文調査委員2名（主査1名、副査1名）により行う。</li> <li>2. 学位論文の審査及び最終試験の合格又は不合格は、論文調査委員の報告に基づき、教授会（保健学専攻会議）が決定する。</li> <li>3. 論文調査委員の選出には、指導教員は含まないこととする。</li> </ol> <p>（評価項目）</p> <p>最終試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の背景や目的が明確であるか。</li> <li>2. 研究課題に関する知識の整理がなされているか。</li> <li>3. 研究の進め方や研究方法について吟味がなされているか。</li> <li>4. 発表は研究結果を適切に表現しているか。</li> <li>5. 発表は論理的に分かりやすく構成されているか。</li> </ol> <p>修士論文</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当該研究領域における修士としての十分な知識を修得し、問題を的確に把握し、説明する能力を身につけている研究内容であるか。</li> <li>2. 研究課題の設定が申請された学位に対して妥当なものであり、論文作成にあたっての問題意識が明確であるか。</li> <li>3. 論文の記述（本文、図表、引用文献など）が十分かつ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっているか。</li> <li>4. 設定した課題の研究に際して、適切な研究方法、調査・実験方法、あるいは論証方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察が為されているか。</li> <li>5. 当該研究領域から見て、独創性を有する論文となっているか。</li> <li>6. 論文の内容には、国際的に新規性があるか。</li> <li>7. 研究の目的が達成されているか。</li> <li>8. 研究課題に関する文献調査が十分なレベルに達しているか。</li> <li>9. 今後の研究の必要性や方向性が述べられているか。</li> </ol> <p>（評価基準） 上記の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。</p>
医療経営・管理学専攻	<p>（審査体制） 院生が作成した卒業成果物に関し、医療経営・管理学講座5人の専任教員が評価を行う。</p> <p>（評価項目） 各自で、①新規性、②（社会への）貢献度、③完成度、④発表、⑤総合評価の5項目につき、A～Dの評価を実施する。A 4点、B 3点、C 2点、D 1点の配点を行い、各院生の成績を点数化する。</p> <p>（評価基準） その点数に応じ、以下の通り成績評価とする。</p> <p>A+：90点以上 A：80点以上 90点未満 B：70点以上 80点未満 C：60点以上 70点未満 D：60点未満</p>

C以上を合格とする。
------------

## ○資料 38 学位論文の審査基準を掲載した Web ページの URL

専攻名	学位論文の審査基準を掲載した Web ページの URL
医学、医科学専攻	http://www.kyushu-u.ac.jp/education/information.php
保健学専攻	http://www.kyushu-u.ac.jp/education/hyouka.php
医療経営・管理学専攻	http://www.kyushu-u.ac.jp/education/information.php

## ○資料 39 学位論文に係る評価基準及び特に配慮している点

専攻名	学位論文に係る評価基準及び特に配慮している点	
医学専攻、 医科学専攻	学位論文に係る評価基準	学府では、学位授与方針に従って、学位論文に係る評価基準・評価手続きが組織として策定されている。
	特に配慮している点	複数の審査項目を設定し、それを基に4段階の評価を行うことで、学生の学習習熟度を厳格に判断することができるように工夫している。

## ○資料 40 学位論文に係る評価基準認定の運用の厳格性・一貫性を確保するための取組の具体例

論文審査については、複数人から構成される論文調査委員を本学教授会にて選定しており、その調査委員のもとで論文調査会が行われている。その後、最終的に教授会にて学位授与認定の是非について諮られ、修了認定までを行う仕組みとなっている。当該審査体制のもとで、学位論文の審査及び修了認定については、適切に行われている。
---

## 1-2-(1)-④ 教育課程の編成の状況

特に医学専攻では、複数の教育コースを設定することで、多様な学生のニーズに対応し、独自のコース修了書も発行している（資料 41）。

## ○資料 41 各専攻における教育課程の編成の特徴

専攻名	教育課程の編成の特徴
医学専攻	①多様な学生のニーズに対応 単一専攻でありながら、履修のための教育コース制導入 基礎医学研究コース、臨床医学研究コース、 がん専門医師養成コース、国際教育研究コース ②コース修了証の独自発行 臨床医学研究コース選択者のうち、医療イノベーション、総合診療とヘルスサービス リサーチ、コホート研究のいずれかに関する必修講義及び実習を修得した者には該当 のコース修了証の発行を行うこととしている。（博士課程）
保健学専攻	①保健学専攻共通科目と各分野の専門科目（講義・演習）を受講して、論文の作成。 ②専門科目及び演習では、各分野における人材養成の特性を考慮し、科学的分析能力や 理論に基づく実践能力が涵養できる科目を設定している。 ③専門科目の必修科目である特別研究では、指導教員のもとで、各分野における研究方 法を学び、特定の研究テーマに関して文献検索、調査、実験等によりデータを収集し、 実験・実習を行い、臨床現場の課題に対応できるより高度な専門的実践能力や技術を 修得することができる。
医療経営・ 管理学専攻	医療の求める新たな分野の高度専門職業人に特化した教育を行うため、医療政策学分 野、医療経営学分野、医療管理学分野及び医療コミュニケーション学分野の教育課程を 編成し、学生自身が自分の必要に応じて、講義を自ら選択して学ぶことができるように している。

## 1-2-(1)-⑤ 教育科目の配置

特に博士課程においては、低年次に倫理教育や基礎研究教育に係る教育科目を配置し、高年次になるにつれ実習や演習を中心とした専門的な科目を配置するという工夫を行っている（資料 42）。

## ○資料 42 各専攻の教育科目の配置の特徴

専攻名	各専攻の教育科目の配置の特徴
医学専攻、医科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医学の基礎知識を持たない学生にも医学の基本を学べる選択必修科目及び選択必修科目で習得した知識を深め研究技法を修得する実習科目の配置（修士課程）</li> <li>○1年次に「医学研究の倫理」のセミナーを開催し、出席を修了要件の一つとして義務付けている。（博士課程）</li> <li>○低年次に各基礎系研究分野の研究内容や最新の知見を教授する「医学研究特論」を開講（博士課程）</li> <li>○高年次ではより専門的な知識を修得させる専攻コア統合科目で開講するセミナー等への参加の義務化（博士課程）</li> </ul>
保健学専攻	保健学専攻では、保健学専攻共通科目と各分野の専門科目（講義・演習）を設置している。
医療経営・管理学専攻	1年次に基礎的な知識・能力の習得が可能な科目を配置し、2年次において、展開的、実践的な応用能力を段階的に涵養できる科目を配置している。

## 1-2-(1)-⑥ 授業内容及び授業時間割

特に医学専攻博士課程においては研究活動を重視しており、(i)大学院生が研究活動に十分に時間をとれる、(ii)研究活動に必要な技術と知識を習得できる、(iii)成果を論文としてまとめる能力を会得できる、(iv)医学生命学の研究者として広く最新の研究の進歩に接することができることに配慮している（資料 43、44）。具体的には、講義を夜間などに集約し研究活動の中断を最小限にしている。

## ○資料 43 各専攻の授業内容及び授業時間割の特徴

専攻名	授業内容及び授業時間割の特徴	
医学専攻、医科学専攻	授業内容の特徴	授業内容は、以下の点を特色としている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医科学専攻修士課程：医学の基礎知識を持たない学生にも医学の基本を学べる選択必修科目及び選択必修科目で習得した知識を深め研究技法を修得する実習科目を配置している。また、博士課程との一貫性をもたせるために基礎医学研究における最新の知見を学べる自由科目を開設している。</li> <li>・医学専攻博士課程：基礎医学、社会医学、臨床医学に加え理農工薬学など他分野が融合した領域を含んだ学際的な学問を学ぶ環境を提供している。】</li> </ul> 授業時間割は、以下の点を特色としている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医科学専攻修士課程：医学の広い知識を系統的に修得できるよう同一科目のシリーズ（I～IV）を同一曜日の1～4限目に集めて開講している。</li> <li>・医学専攻博士課程：社会人学生が履修しやすいよう、「医学研究の倫理」と「医学英語」以外の授業科目は夜間に開講している。</li> </ul>
	授業時間割の特徴	授業時間割は、以下の点を特色としている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医科学専攻修士課程：医学の広い知識を系統的に修得できるよう同一科目のシリーズ（I～IV）を同一曜日の1～4限目に集めて開講している。</li> <li>・医学専攻博士課程：社会人学生が履修しやすいよう、「医学研究の倫理」と「医学英語」以外は授業科目は夜間に開講している。（5、6、7限目）</li> </ul>
保健学専攻	授業内容の特徴	授業内容は、保健学全般の基礎から応用まで幅広く対応できる内容を特色としている。

## 九州大学医学系学府 分析項目 I

	授業時間割の特徴	授業時間割は、1年次に基礎的並びに応用的な知識・能力の習得に配慮し、2年次において、実践的な特別研究を段階的に理解できるように配慮している。
医療経営・管理学専攻	授業内容の特徴	授業内容は、以下の点を特色としている。 ケース教材による事例研究や、実際の病院経営管理者、医療行政担当官等による講義、さらには病院見学等を取り入れており、実践的な教育内容となるよう配慮している。
	授業時間割の特徴	授業時間割は、以下の点を特色としている。 ・社会人学生が履修しやすいように、全ての必修専門科目を同一曜日（火曜日）に配置している。また、1年次に基礎的な知識・能力の習得に配慮し、2年次において、展開的、実践的な応用能力を段階的に涵養できるように配慮している。

## ○資料 44 教育課程・授業科目・授業内容に関する工夫の具体例

専攻名	教育課程・授業科目・授業内容に関する工夫の具体例
医学専攻、医科学専攻	○医学専攻博士課程の履修モデルは、コース別に作成している。 ○医科学専攻修士課程の場合、入学者のバックグラウンドが様々なため、履修モデルは作成していないが、履修登録については指導教授と相談の上、決定するよう指導しており、大学院係窓口においても相談に乗っている。 ○がん専門医師養成コースでは、本学府での講義以外に、さらに広く深く学ぶための参考資料として、「がんプロ全国 e-learning クラウド」及び九州がんプロ養成基盤推進プラン独自の「e ラーニングプログラムジュークボックス」の視聴を推奨している。
保健学専攻	保健学専攻では、入学者のバックグラウンドが様々なため、履修モデルは作成していないが、履修登録については指導教授と相談の上、決定するよう指導しており、窓口においても相談に乗っている。
医療経営・管理学専攻	医療経営・管理学専攻の履修モデルは、入学者の多くが社会人学生のため、職業別かつ医療系・非医療系で10パターン作成し、履修登録時の参考となるよう示している。

## 1-2-(2) 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

## 1-2-(2)-① 社会のニーズに対応した教育課程の編成

多数の寄付講座の設置や、文部科学省の採択事業を活用した外国語授業の開講等ニーズに応じた教育課程の編成又は授業科目の内容を整備している（資料 45）。例えば、「未来医療研究人材養成拠点事業（医療イノベーション推進人材養成）」の採択受けて、創薬展開や国際治験などの講義を英語で実施し、国際レベルの基礎研究の臨床への展開に取り組んでいる。所属あるいは他研究室での実習、論文作成演習、論文講読演習、他研究室のセミナー参加を単位化している。外国人留学生には、医系キャンパス内で行われる国内外の一流研究者による英語講演の聴講を単位として認めることで、幅広い領域の最先端研究に触れる機会を提供している。

## ○資料 45 学生のニーズ等に応じた教育課程の編成の具体例

専攻名	学生のニーズ、社会からの要請等に応じた教育課程の編成	
医学、医科学専攻	授業科目への学術の発展動向（担当教員の研究成果を含む。）の反映	本学府には、多数の寄附講座が設置されており、授業や研究指導にも携わっているため、学術の発展動向が強く反映されている。その他、平成25年度から博士課程の授業科目に必修科目として「医学研究特論」を設け、全学生に基礎系研究分野の研究内容紹介や基礎医学研究の最新の知見をテーマにリレー講義を行っている。なお、この科目は、修士課程学生にも開放している。また、学生が所属する研究室においては、専門分野におけるセミナーや勉強会において、学外から多数の講師を招聘し常に学術の発展動向を学んでいる。
	外国語による	平成25年度に文部科学省「未来医療研究人材養成拠点事業（医療イノベ

## 九州大学医学系学府 分析項目 I

	授業の実施	ーション推進人材養成)」に採択されたことに伴い、外国人教員（教授 1、助教 2）を雇用し、英語による専門授業を開講している。外国人留学生には、国内外の一流研究者による英語講演の聴講を単位化。
	他研究科の授業科目の履修	指導教員が必要と認める時は、他の専攻もしくは学府又は学部の課程による授業科目及び単位数を指定して履修させることができる。
	秋期入学への配慮	本学府は秋季入学制度を設けていないが、外国人留学生は、日本の環境に慣れることや日常日本語会話能力の習得などのため最初に研究生として受け入れることが多く、多くの留学生を研究生として 10 月に受け入れている。
	その他特筆すべき事例	平成 25 年度に文部科学省「未来医療研究人材養成拠点事業」として、1) 医療イノベーション推進人材の養成、2) リサーチマインドをもった総合診療医の養成に採択され、大学院にそれぞれ専門のコースを設置している。また、本学リーディングプログラムの採択を受け、大学院に新世代コホート研究コースを設置している。関連して、医学研究院に教育・研究の基盤となる総合コホートセンターを設置した。
	他研究科の授業科目の履修	知識・知恵を幅広く身に付けるため他研究科の授業科目の履修・単位交換も可能にしている。
	他大学院との単位互換	知識・知恵を幅広く身に付けるため他大学院の授業科目の履修・単位交換も可能にしている。
	秋期入学への配慮	修士課程と博士後期課程において、外国人留学生の国際コースは 10 月入学を実施している。
保健学専攻	外国語による授業の実施	学生の多様なニーズに応えるため、国際コースにて英語による開講科目を充実させている。
医療経営・管理学専攻	他専門職大学院との相互履修	本学の他の専門職大学院である経済学府産業マネジメント専攻、人間環境学府実践臨床心理学専攻、法科大学院 3 つの専門職大学院と相互履修科目も設けている。本専攻においては、2 年目からの履修となっているが、「相互履修」に関するオリエンテーションを通して他の専門職大学院に関する情報を得て、他の専門職大学院とコンタクトを取り相互履修科目以外】の講義の聴講を願いでるなど、学生への多様な教育の提供の機会となっている。
	演習における卒業成果物の支援	演習においては、より現場にフィードバックできる学習をしたいという要望を受け入れて、医療経営・管理を改善するための調査、ケーススタディ、ケースメソッド、教材作成などを支援している。

## 1-2-(2)-② 文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等に採択された取組の実施状況

文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等に採択された「大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育」では疫学・病理・ゲノム解析、主要生活習慣病の病態解析及び先端医療開発研究の分野に特化した専門家を育成することを目標としたものである。本プログラムの活動は、1960 年代より半世紀にわたり世界に先駆けて大規模コホート研究を展開してきた本学大学院医学研究院の伝統と相まって、本学総合コホートセンターの設置へと発展している。

文部科学省「大学改革推進事業」に採択された取組「九州がんプロフェッショナル養成プラン」では、本学大学院医学研究院に九州連携臨床腫瘍学講座を設置し、大学院博士課程に「がん専門医師養成コース」を設置し、がんに関与した特化した指導的医療人材の養成を目的としている。5 年のプログラム終了後はその成果が認められ、5 年間のプログラムとして平成 24 年度に「九州がんプロ養成基盤推進プラン」が文部科学省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（資料 46-1）に選定され、九州の 12 大学が連携して継続的にがん専門医療人を養成し、がん医療現場や教育現場で抱える社会のニーズの解決を目指す取組へと発展している。採択事業一覧を資料 46-2 に示す。

## ○資料 46-1 「九州がんプロ養成基盤推進プラン」



## ○資料 46-2 文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等に採択された取組の実施状況

専攻名	文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等に採択された取組の実施状況
医学専攻	<p>○文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等に採択された取組「臨床研究活性化のための大学院教育改革」及び「大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育」を実施しており、その実施状況は、大学院博士課程に「基礎医学研究者養成コース」、「臨床研究専門教育コース」及び「生活習慣病研究教育コース」を設置し、それぞれの教育目的に沿った人材育成を行い、教育への反映やその効果も上がった。平成 26 年度からは、従来のコースによる人材育成を包括しつつ、大きく臨床研究及び基礎研究の方向性を明確にするため、コースの再編を行った。</p> <p>○また、文部科学省「大学改革推進事業」に採択された取組「九州がんプロフェッショナル養成プラン」についても、大学院博士課程に「がん専門医師養成コース」を設置し、がんに特化した医療人材の養成を目的とし教育を行ってきた。5年のプログラム終了後も引き続き、九州がんプロ養成基盤推進プランにて、指導的立場のがん専門医を養成している。</p> <p>○文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に採択された取組「イノベーションを推進する国際的人材の育成」及び「地域包括医療に邁進する総合診療医育成」として、大学院博士課程に「医療イノベーションコース」、「総合診療医コース」を実施し、それぞれの教育目的に沿った人材育成を行っている。</p>
保健学専攻	<p>文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等に採択された取組「九州がんプロフェッショナル養成プラン」を実施しており、その実施状況は、大学院博士課程に「がん専門臨床検査技師（細胞検査士）養成コース」、「医学物理士及び放射線治療品質管理士養成コース」及び「がん看護養成コース」を設置し、それぞれの教育目的に沿った人材育成をしており、教育への反映やその効果も上がっている。</p>
医療経営・管理学専攻	<p>○平成 20 年度、21 年度に文部科学省大学改革推進経費の補助を受け、PDCA サイクルを回し、「医療関係者の問題解決能力の向上に資するプログラムの開発」を行った。平成 23・24 年度は、その成果を踏まえ、学内の教育の質向上支援プログラム (EEP) の支援を受け、「医療の質改善のための評価教材の開発-診療プロセスで発生するデータを用いた医療の</p>

質の改善を図る教育教材の開発-」を行った。ゼミ活動ではこれらの教材を活用し、その結果、電子レセプト、急性期病院の診断別支払に関する DPC (Diagnosis Procedure Combination) データを利用した医療経営・管理に関する研究、教材作成、現場の業務改善のためのツール作成、ビジネスモデルの構築、現場での調査に基づく研究などが最終成果物のテーマとなっている。

### 1-2-(3) 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

英語による授業だけで修了できる「国際コース」を設置した。特徴としては、医学系キャンパスで多数行われている一流外国人研究者による英語の学術セミナーへの参加を単位として認定し、幅広い分野で最先端の医学研究情報へ接するように奨励している。また、研究室内で行われるセミナーや自身の研究発表を英語で行わせることを単位化して、研究における実践的な英語プレゼンテーション能力の育成に努めている。

### 1-2-(4) 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

#### 1-2-(4)-① 指導体制

特徴としては、学生の研究内容により、所属教室以外の教室への長期の出向も奨励し複数指導教員による指導体制も可能となっている。実際、特別研究員としての学外への派遣はこの5年で年平均15人である。基礎研究と臨床研究の連携の促進の工夫として、臨床研究室から基礎医学研究室への30%の大学院生派遣を目標として教授会で定めており、27年度現在達成されている。

#### 1-2-(4)-② 授業形態

授業形態別開講数については、資料47に示す。

○資料47 学府教育科目における教育課程の中での授業形態別開講数

専攻名	講義	少人数 セミナー	演習	実験	実習	その他
医学、医科学専攻	74	248	6	0	12	0
保健学専攻	79	33	26	0	3	0
医療経営・管理学専攻	37	0	10	0	1	0

(1) 専門的知識と実用的技術の獲得、(2) 先端的研究を遂行できる科学的思考能力と発表能力の向上のための工夫は、資料48に示す。各研究室は海外や国内の優れた研究者を積極的に招へいし、討論型のセミナーを行っており、(2)の目的にとって特に重要なものである。

## ○資料 48 教育効果を高めるための工夫の具体例

専攻名	教育効果を高めるための工夫の具体例	
医学専攻、 医科学専攻	少人数授業	修士課程、専門職学位課程においては1学年の定員が20名とそもそも少なく、博士課程においても必修科目以外の授業ではコース選択や専門が分かれるため適度なクラス規模で授業を行っている。
	対話・討論型 授業、事例研 究型授業	所属の研究室で行われる授業は全て事例研究に基づく討論型のセミナーである。また、授業以外でも各研究室が海外や国内の優れた研究者を招へいし、討論型のセミナーを行っている。中には学生が主体となって希望する研究者を招きセミナーを行っているものもある。
保健学専攻	少人数授業	修士課程の1学年の定員が27名、博士後期課程は10名であるため、必修科目以外の授業ではコース選択や専門が分かれるため適度なクラス規模で授業を行っている。
	対話・討論型 授業	専門科目の特別研究において、研究発表会を行い、対話・討論型の授業を行っている。
医療経営・ 管理学専攻	現場に向 いての授業	必修科目及び選択科目においては、病院・診療科・手術の見学やSPD(Supply Processing&Distribution;院内物流)の倉庫見学・裁判所見学など、現場に向いての教育の機会を積極的に設けている。
	実務者や専 門家を招い ての授業	各担当科目のなかで必要に応じて医療経営管理の領域で特色ある成果を挙げている病院の経営者・管理者など、現場における第一線の実務者や専門家を招き、講義のみならず討論・質疑の機会を設け、実践教育の充実を図っている。
	教育方法の 工夫	教育方法については、教材としてケースを活用したケーススタディを行ったり、講義形式については、グループワークディスカッションやケースメソッドなどを活用したりするなど、科目によって適切な方法で行っている。

九州がんプロ養成基盤推進プランでは独自の「eラーニングプログラムジュークボックス」を作成している（資料 49）。

## ○資料 49 多様なメディアを高度に利用した授業の具体例

専攻名	多様なメディアを高度に利用した授業の具体例
医学専攻、 医科学専攻	<p>○多様なメディアを利用した授業として、医学英語の授業で、本学で導入されている ALC NetAcademy を活用している。オンライン英語学習システムを利用することで、社会人学生が都合のよい時間に勉強することができる。授業初回と最終回は全履修者を集めたオリエンテーション及び総括を設定している。また、外国人教員によるオフィスアワーでのオフライン学習支援も行っていったことから、「対面授業に相当する教育効果」を有すると認められる。</p> <p>○がん専門医師養成コースでは、本学府での講義以外に、さらに広く深く学ぶための参考資料として、「がんプロ全国 e-learning クラウド」及び九州がんプロ養成基盤推進プラン独自の「eラーニングプログラムジュークボックス」の視聴を推奨している。</p>

## 1-2-(4)-③ 研究指導

臨床医学・社会医学・生命科学など、社会の多様なニーズに対応した人材を育成するという教育目的に基づいて、指導体制を構築している（資料 50）。また、学位論文に係る指導について、様々な研究支援を行っている（資料 51）。

## ○資料 50 研究指導体制、指導方法の具体例

専攻名	指導体制の具体例
医学専攻、医科学専攻	本学府では、主任教授による研究指導・論文指導体制が中心であるが、研究室に所属する複数の教員が専門分野の違いを相互補完しながら学生の指導を行っている。また、臨床系研究分野入学者の 1/3 程度を基礎系研究分野に派遣し、基礎と臨床の連携を深めている。
保健学専攻	主と副の指導教員による研究指導・学位論文に係る指導体制を整備し、適切な計画に基づいて指導が行われている。指導教員の指導のもと、研究計画を立てており、適切な計画に基づいて、適切な指導が行われている。また、組織的に、論文中間発表を行い、最終年次には論文公開審査を行っている。
医療経営・管理学専攻	演習においては、学生の希望と指導教員の専門性を鑑みて、研究を指導する演習の選択について 1 年次前期に学生と教員とのマッチングを行っている。また組織的に、中間発表を行い、最終成果物公開審査を行っている。演習については、専任教員全員による 4 段階評価を総合点として評価し、成果物発表会終了後「講座教員会議」で承認ののち「専攻運営会議」に報告している。評価結果は全員の平均点とともに学生に通知される。

## ○資料 51 学位論文に係る指導上の工夫

専攻名	学位論文に係る指導上の工夫	
医学専攻、医科学専攻	複数教員による指導体制	度としては設けてはいないが、平成 20 年度に一専攻化したことにより、基礎系、臨床系の枠組みを超えて、学生の相互派遣を行っているため、実質的に複数教員の指導を受ける体制が整っている。
	研究テーマ決定に対する指導	指導教授と関連教員、学生の相談のもと、研究テーマを決定している。一部の分野では、ポートフォリオを活用し、研究テーマを決定している。
	年間研究指導計画の作成・活用	ポートフォリオ
	国内外の学会への参加促進	科研費だけでなく、寄附金による学会参加費を補助する制度を設けている。
	他大学や産業界との連携	学内の寄附講座における研究指導や他大学への研究指導委託も行っている。
	TA・RA としての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練等	TA・RA を積極的に任用し、修士課程の学生に対しては学部授業の実験研修補助を、また博士課程の学生には修士課程授業の教務補助に活用している。このような教育・指導をする経験は、指導を受けて進める受動的な研究姿勢から、能動的な知識・技術獲得へ転換する動機付けとなっている。
保健学専攻	複数教員による指導体制	複数教員による指導体制が採用されている。
	研究テーマ決定に対する指導	研究テーマ決定に対する指導体制が採用されている。
	TA・RA としての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練等	学部の講義及び演習では修士学生を TA として採用し、講義・演習の補助に従事。また、博士学生は研究補助として RA として採用している。
医療経営・管理学専攻	問題解決型の研究方法	演習指導にあたっては、教員は学生の希望するテーマに沿いつつ理論と実務の統合を念頭に置き、社会人が現場の実務を踏まえた研究・調査が行い成果物とすることができるよう配慮し、現場で問題を明確にして実現可能な対応策が提言できるような問題解決型の研究方法をとるなど、多様な工夫がなされた研究指導が行われている。

## 1-2-(4)-④ TA・RA の活用状況

大学院生の教育と研究支援のために RA を配置している（資料 52）。RA は教育・研究の補

助業務を通じた将来の自立した研究者としての事前訓練として位置づけている。

## ○資料 52 RA の配置状況(平成 26 年度実績)

RA の延べ人数	RA の延べ時間数
17	3633

## 1-2-(5) 学生の主体的な学習を促すための取組

## 1-2-(5)-① 学生の主体的な学習の促進の工夫

大学院生における主体的アプローチとは、自身の研究遂行上で問題が生じたときに、その解決のために必要な知識と技術は何かを自主的に求めることである。本専攻では、与えられた研究テーマに対する研究時間を大学院生に極力保証することが最も重要と考えている。修士課程においては、授業時間外の学習時間の確保のため、5 限目以降には講義を設定しておらず、また、座学を 1 年次前期前半に終わらせ、論文作成のための実験・研究時間を多く確保できるよう工夫している(資料 53)。

## ○資料 53 学生の主体的な学習の促進等の工夫の具体例

専攻名	学生の主体的な学習を促し、十分かつ必要な学習時間を確保するための工夫の具体例	
医学専攻、医科学専攻	シラバスを利用した準備学習の指示	履修指導の際に口頭で指示している。
	レポート提出や小テストの実施	シラバスの成績評価欄に記載にしている。
	履修科目の登録の上限設定	専門職大学院課程では、履修登録の上限を設定し、実施している。
	その他特色ある取組	学生の授業時間外の学習時間の確保のために修士課程では講義を 5 限目に設定しておらず、また、座学の授業は 1 年次前期前半に終わらせるようカリキュラムを組んでおり、前期後半から論文作成のための実験・研究に集中できるよう工夫している。社会人学生が多数を占める専門職学位課程では週 1 日に必修科目を集め、他の 4 日間はゆとりのある時間割を作成するという工夫を行っている。また、学生の主体的な学習を促すための組織的な履修指導として大学院入学式の後にそれぞれの課程ごとに学生を別室に集め教務関係全ての説明を行うという工夫を行っている。
保健学専攻	学生の主体的な学習を促すための組織的な履修指導	全学年において、チュートリアル教育、WEBCT の活用を、実施している。
	シラバスを利用した準備学習の指示	本学シラバスのホームページに掲載している。
	レポート提出や小テストの実施	レポート提出や小テストを実施している。
	その他特色ある取組	学生の授業時間外の学習時間の確保のために集中した講義時間ではなく、むしろ余裕のある講義時間を設定することで実験や研究を行える工夫を行っている。また、学生の授業時間外学習(準備学習・復習)時間に関する調査結果を 4 月のオリエンテーション時に、WEB により公表していることを周知しており、また掲示でも周知することにより、学習時間の有効な使い方を知ることができるようにしている。
医療経営・管理学専攻	学生の主体的な学習を促すための組織的な履修指導	学生全員に担任制をとっており、担任教員が履修指導を行っている。
	シラバスを利用した準備学習の指示	シラバスに授業の概要、授業のすすめ方、教材、試験・成績評価について記載している。
	レポート提出や小テストの実施	試験・成績評価の方法については、シラバスに付記し、学生に周知したうえで、適宜、筆記試験並びにレポートの提出等を行っている。

履修科目の登録の上限設定（専門職大学院課程）	1 学期あたりの履修科目の登録上限を 25 単位としている。
その他特色ある取組	社会人学生が履修しやすいように、全ての必修専門科目を同一曜日（火曜日）に配置している。また、1 年次に基礎的な知識・能力の習得に配慮し、2 年次において、展開的、実践的な応用能力を段階的に涵養できるよう配慮している。

## 1-2-(5)-② 学習支援の状況

学生の自主的な学習・研究にともなう相談の窓口を設けている（資料 54）。特に、障害者、留学生、社会人学生等への学習支援に取り組んでいる（資料 55）。学生のニーズの把握にも努めている（資料 56）。

## ○資料 54 学習相談の実施状況

オフィスアワー	電子メール	担任制等	ピアアドバイザー制度	その他
実施	実施	指導教員	大学院生	何でも相談窓口の設置

## ○資料 55 留学生、社会人学生等への学習支援の状況

留学生	社会人	障がい者
○外国人留学生担当教員（1 名）を配置 ○指導教員、研究室でのサポート	○指導教員が個別に十分対応している。 ○医学専攻博士課程では、毎週火曜 6、7 限目に授業を実施している。	障害者用施設（トイレ、スロープなど）の整備、講義室座席の配置へ配慮

## ○資料 56 全学教育・学部・学府における学習支援に関するニーズ把握状況

授業アンケート	その他のアンケート	その他のニーズを汲み上げる対策
一部実施	在学生アンケート	オフィスアワー

（水準）

期待される水準を上回る

（判断理由）

社会のニーズに対応した教育課程として、文部科学省の大学教育改革等の支援を受けた様々な事業が採択され、それぞれ医療の現場や創薬への還元を明確にしたプログラムを策定している。それぞれのプログラムはその終了後もその目的を継承した形で発展的に継続されていることから、その目的を達成していると判断できる。

留学生には医系キャンパスで多数行われている一流外国人研究者による英語の学術セミナーへの参加を単位として認定し、幅広い分野で最先端の医学研究情報に接するように奨励している。

これらの教育内容は、高度医療人及び医学研究人材養成のための教育組織に関係者が期待している一般的な教育研究体制の水準を大きく上回るものである。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## 観点2-1 学業の成果

(観点に係る状況)

## 2-1-1 在学中や卒業・修了時の状況

## 2-1-1-① 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

## 1) 単位修得状況

修了者の課程修了時点の単位取得は極めて高い状況である(資料57)。

## ○資料57 平均単位修得率

平成22年度入学	平成23年度入学	平成24年度入学	平成25年度入学	平成26年度入学
98.7	97.5	99.8	99.8	98.2
備考：平成26年度までの学生の成績情報(学務情報システム)から次の定義で、各学生の単位取得率を算出。 単位修得率 = (取得した単位数) / (履修登録した授業の総単位数) × 100 (値は%) さらに、学部及び大学院ごとに全学生の単位取得率の平均をとり、その値を平均単位取得率とした。 平均単位修得率 = (全学生の単位取得率の総和) / (学生数) 出典：学務情報システム				

## 2) 成績評価の状況

成績評価の状況は、本学府の成績評価は絶対評価で行っている(資料58)。A評価の割合が高いことは入学試験時に優秀な学生を確保していること、入学後の指導が適切であることを示していると考えられる。

## ○資料58 成績評価の分布表(平成24年度)

A	B	C	D	その他
94.7%	4.1%	1.0%	0.2%	0.0%

## 3) 標準修業年限内の卒業(修了)率及び学位授与状況

修了者の標準修業年限内の卒業(修了)率は80-90%である(資料59)。

博士課程では、標準修業年限内の卒業(修了)率は5割以下であるという課題がある。この原因は保健学専攻では社会人学生が多数在籍してことも一因と考えられる。医学専攻では医学専攻の基礎医学系コースに比べ臨床医学系コースの期限内修了率が特に低く、臨床的データ収集のための臨床業務が大きな負担となっていることと、臨床的データの収集は長期間を要する傾向があることが原因と考えられる。

## ○資料59 標準修業年限内の修了率(%)

修士課程 (標準修業年限2年)	20年度入学 (21年度修了)	21年度入学 (22年度修了)	22年度入学 (23年度修了)	23年度入学 (24年度修了)	24年度入学 (25年度修了)	25年度入学 (26年度修了)
医科学専攻	83.4	87.5	88.9	85.0	88.2	82.6
保健学専攻	81.0	95.2	84.6	86.2	80.0	89.7
博士後期課程 (標準修業年限3年)	19年度入学 (21年度修了)	20年度入学 (22年度修了)	21年度入学 (23年度修了)	22年度入学 (24年度修了)	23年度入学 (25年度修了)	24年度入学 (26年度修了)
保健学専攻	19年度開設、実績は21年度から		27.3	36.4	16.7	8.3
博士課程 (標準修業年限4年)	18年度入学 (21年度修了)	19年度入学 (22年度修了)	20年度入学 (23年度修了)	21年度入学 (24年度修了)	22年度入学 (25年度修了)	23年度入学 (26年度修了)

## 九州大学医学系学府 分析項目Ⅱ

医学専攻	41.4	43.3	39.8	40.0	33.3	43.3
定義：平成 26 年度までに標準修業年限内に卒業・修了した学生の学籍情報（学務情報システム）から以下の定義で算出。集計は入学した年度に遡って行い、入学者数を分母とした。 標準修業年限内卒業修了率 = (標準修業年修了者数) / (入学者数) × 100 (値は%) ただし、標準修業年限は、学士課程は 4 年（医歯薬は 6 年）、修士課程・博士前期は 2 年、博士後期課程は 3 年、博士課程は 4 年、博士一貫は 5 年、専門職学位課程は 2 年または 3 年である。 値はパーセント、小数点以下 1 桁。 出典：学務情報システム						

## 4) 退学率

退学率は資料 60 で示す。博士課程においては、各年度 4 割前後の退学者が出ている状況にあるが、この大多数が修了に必要な単位を取得したが学位論文の作成が間に合わずに退学した者であり、上記 3) の期限内修了率の観点と同様である

## ○資料 60 課程ごとの退学者率 (%)

課程ごとの退学者率		21 年度迄の卒業	22 年度迄の卒業	23 年度迄の卒業	24 年度迄の卒業	25 年度迄の卒業	26 年度迄の卒業
医学系学府	修士課程（修業年限 2 年）	20 年度入学	21 年度入学	22 年度入学	23 年度入学	24 年度入学	25 年度入学
		11.6	8.3	8.6	10.0	6.4	13.0
医学専攻	博士課程（修業年限 4 年）	18 年度入学	19 年度入学	20 年度入学	21 年度入学	22 年度入学	23 年度入学
		46.5	40.2	42.3	41.6	35.2	27.7

## 5) 学位授与状況

修了者の学位授与状況は、資料 61 に示す。毎年度 100 件以上医学博士号を授与しているという状況にあり、毎年の医学専攻入学者にほぼ等しい。このことは、医学専攻の単位修了退学者のほとんどが最終的には学位を取得していることを示している。

## ○資料 61 課程ごとの学位授与状況

学位の名称	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
医療経営・管理学修士（専門職）	20	21	15	23	20	18
修士（医科学）	20	22	8	18	18	19
修士（看護学）	9	9	4	9	4	6
修士（保健学）	13	12	19	18	23	24
学位の名称	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
博士（医学）	105	115	103	125	107	104
博士（看護学）	該当無し		1	4	3	3
博士（保健学）	該当無し		2	3	4	7
博士（理学）	0	0	0	0	0	0

出典：九州大学概要 2009 年度版～2014 年度版、学務情報システム

## 2-1-(1)-② 学生が受けた様々な賞や学位論文の状況から判断される学習成果の状況

在学生の受賞状況を資料 62 に示す。医学専攻博士課程の期限内修了者は学位授与の内規上全員在学中に筆頭著者英語論文を発表している。インパクトファクターが 10 以上の雑誌に発表された学位論文は平成 24 年度が 9 編、25 年度 3 編、26 年度 7 編であった。

## 九州大学医学系学府 分析項目Ⅱ

## ○資料 62 国内外学会での受賞例及び学生の各種コンペティション等の受賞数

専攻名	学生の各種コンペティション等における受賞数
医学専攻、医学専攻	<p>○社会のニーズに応える研究者の育成及び高度専門職業人の育成という点での教育成果を示すものとして、学生の各種コンペティション等における受賞数は高い水準にある。</p> <p>(平成22年度) 4件 日本神経病理学会、日本腎臓学会、IFCN</p> <p>(平成23年度) 10件 Asia Pacific Orthopaedic Association、Society for Neuroscience、日本遺伝学会、日本肝臓学会、日本消化器病学会、日本整形外科学会、日本生体医学工学会、日本統合失調症学会、日本不安障害学会</p> <p>(平成24年度) 16件 日本麻酔科学会、American Diabetes Association、日本膵臓学会、日本腎臓学会、International Conference on Complex Medical Engineering、日本生物学的精神医学会、PACTRIMS、Pancrease Club、International Society of Hypertension、日本胆道閉鎖症研究会、日本心療内科学会、WCPGHAN、米国血液学会、日本軟骨代謝学会</p> <p>(平成25年度) 11件 日本外科学会、日本精神神経学会、日本結合組織学会、日本生物学的精神医学会、日本口腔インプラント学会、日本細菌学会九州支部総会、日本口腔外科学会、日本医療・病院管理学会誌、日本脳神経外科学会第72回学術集会、国際心臓研究会日本部会、</p> <p>(平成26年度) 7件 公益財団法人日本科学協会、結合組織学会、日本病院学会、日本平滑筋学会、九州内視鏡下外科手術研究会、日本内視鏡外科学会総会</p> <p>(平成27年度) 7件 公益財団法人内視鏡医学研究振興財団、日本FP協会、ICME2015、日本医療マネジメント学会、American Society of Nephrology、日本環境感染学会</p>
保健学専攻	<p>社会のニーズに応える研究者の育成及び高度専門職業人の育成という点での教育成果を示すものとして、学生の国内外の学会における受賞数は高い水準にある。</p> <p>(平成22年度) 9件 Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP)、The 18th annual nationwide conference of CSIT 2010、World Automation Congress (WAC)、総会学術大会、日本医学物理学会(JSMP)、日本放射線技術学会(JSRT)</p> <p>(平成23年度) 17件 AOCMP、CSIT 2010、European Association of Nuclear Medicine、European Congress of Radiology、JKMP and AOCMP 2011、SPIE Medical Imaging、World Automation Congress、日本医学物理学会学術大会、日本放射線技術学会、日本放射線腫瘍学会</p> <p>(平成24年度) 9件 Radiological Physics and Technology、Society of Nuclear Medicine (米国核医学会)、医用画像情報学会(MII)、応用物理学会・放射線分科会、日本放射線技術学会</p> <p>(平成25年度) 16件 日本医学物理学会、日本放射線技術学会独立行政法人日本学術振興会、日本医学物理学会、Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging、日本看護管理学会、日本医学物理学会、14th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2013 in Daejeon, Korea)</p> <p>(平成26年度) 10件</p>

International Society for Optics and Photonics (SPIE Medical Imaging)、日本医学物理学会、日本放射線技術学会、61st Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging、日本ホルターノンインベシブ心電研究会、JSMP/KSMP、14th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP) & 12th South East Asia Congress of Medical Physics (SEACOMP), in Ho Chi Minh City, Vietnam, Oct.25,2014, The 4th Annual International Asian Society of Nuclear Medicine Technology Conference  (平成27年度) 8件 日本放射線技術学会総会学術大会、日本医学物理学会、日本放射線技術学会、ICRR、日本臨床検査学教育学会、European Congress of Radiology (ECR)
---

## 2-1-1(1)-③ 分析のまとめ

博士課程学生の期限内修了率が低いが、履修率、受賞数、論文の水準等から判断して、学習成果が上がっていると評価できる。

## 2-1-1(2) 在学中や卒業・修了時の状況から判断される学業の成果を把握するための取組とその分析結果

## 2-1-1(2)-① 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

## 1) 全学共通フォーマットによる Web アンケート調査

特に能力の獲得については肯定的な評価が高い (資料 63)。

○資料 63 学習の達成度・満足度に関するアンケート調査の結果 (全学共通フォーマットによる Web アンケート調査)

## 問 1 「次の能力について向上したか」

次の能力について向上したか	大いに向上している	少し向上している	どちらとも言えない	あまり変わらない	全く変わらない	該当なし
英語の運用能力	3	5	1	0	1	0
英語以外の外国語の運用能力	0	1	0	0	8	1
情報処理 (コンピュータやインターネットの活用) の能力	5	4	0	0		0
未知の問題に取り組む姿勢	3	5	2	0	0	0
他人に自分の意図を明確に伝える能力	1	6	2	0	1	0
討論する能力	2	3	3	1	1	0
集団でものごとに取り組む能力	1	4	2	2	1	0
自分の専門分野に対する深い知識や関心	6	4	0	0	0	0
分析的に考察する能力	3	6	0	0	1	0
新たなアイデアや解決策を見つけ出す能力	2	5	1	1	1	0
記録、資料、報告書等の作成能力	3	2	3	1	1	0
国際的に物事を考える力	3	2	3	1	1	0

## 九州大学医学系学府 分析項目Ⅱ

人間や文化についての関心や理解	3	2	2	3	0	0
0 社会についての関心や理解	2	5	2	0	1	0

## 問2 「学習目標は達成しているか」

学習は達成しているか	達成している	おおむね達成している	どちらとも言えない	あまり達成していない	達成していない	該当なし
授業	0	9	0	0	1	0
ゼミ（少人数教育）	3	5	1	0	1	0
研究指導	0	7	1	0	0	0
研究環境	1	6	1	0	2	0

## 問3 「九大での学習に満足しているか」

九大での学習に満足しているか	満足である	どちらかといえば満足	どちらとも言えない	どちらかという不満	不満である	該当なし
授業	1	4	0	3	2	0
ゼミ（少人数教育）	1	3	0	1	2	3
研究指導	2	4	0	1	3	0
研究環境	4	2	0	1	3	0

平成25年度 全学全課程統一在学生アンケート概要	
調査対象	大学院 (1,443人中523人が回答) システム情報科学府(M2)、システム生命科学府(M1、M2)、人文科学府(M2)、人間環境学府・実践臨床心理学専攻(M2)、人間環境学府(M1、M2、D1、D2、D3)、理学府(M2)、生物資源環境科学府(M2)、経済学府・産業マネジメント専攻(M2)、経済学府(M2)、統合新領域学府(オートモーティブサイエンス専攻M1、ユーザ感性学専攻M1M2)、芸術工学府(M2)、薬学府(創薬科学専攻M2)
実施時期	平成25年10月11日から11月21日
調査項目	重点をおいている経験、能力や知識の向上度、教育課程・経験の達成度及び満足度、影響を与える教員との出会い、一週間当たりの活動時間、施設及び設備の利用度と満足度、学修・生活支援の利用度と満足度、教育目的等の認知度。

## 2) 部局独自の学習の達成度・満足度に関するアンケート調査(資料64)

8割以上が専門分野の能力が向上したと回答し、実験や講義についても同様であり、非常に高い満足度を得ていると言える。

## ○資料64 学習の達成度・満足度に関するアンケート調査の概要

専攻名	達成度・満足度アンケート調査の概要
医科学専攻	○本学府における学習の達成度・満足度に関する学生の評価は、修士課程学生及び専門職学位課程学生を対象とした、学生アンケート調査により得られ、これらの結果を教育改善のためのデータとして今後活用していく。 ○平成25年度の調査の結果からは、修士課程学生では「大学院入学時と比較して、能力や知識の変化」について、「未知の問題に取り組む姿勢」「自分の専門分野に対する深い知識や関心」「客観的に考察・分析できる能力」が向上したとする意見が8割以上であり、また、「大学院教育の満足度」については、「実験」について、8割以上の学生が満足しており、これを裏付けるものとして、「実験・研究」に、週20時間以上従事していると回答した学生が8割以上であり、その他の結果等を見ても、学習の達成度・満足度とも評価する声が強い。専門職学位課程学生においても「大学院入学時と比較して、能力や知識の変化」について、「未知の問題に取り組む姿勢」「自分の専門分野に対する深い知識や関心」「客観的に考察・分析できる能力」「人間や文化についての関心や理解」「社会についての関心や理解」が向上したとする意見が8割以上であり、また、大学院授業について学生の8割以上が自身の達成度、満足度ともに高い評価をしている。
保健学専攻	○本学府における学習の達成度・満足度に関する学生の評価は、学生係が実施している学生アンケート調査により得られ、これらの結果が教育改善のためのデータとし

	て活用されている。 ○各年度の調査の結果からは、「自分の専門分野に対する深い知識や関心」「未知の問題に取り組む姿勢」「客観的に考察・分析できる能力」は9割以上が肯定的であり、本学府における学習成果を評価する声強い。
--	--

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

修士課程学生はほとんどが期間内に修了できている。また、アンケート結果も80%以上が肯定的返事をしている。一方で、博士課程の期限内修了率が50%を下回る状況である。

成果物の水準は、医学専攻博士課程ではインパクトファクターが10を超える学位論文も平成24年度から26年度の3年間で19編ある。

以上、最終成果の水準は医学府が想定する学生、医療、学術、産業関係者の期待を上回るが、博士課程教育が期限内には十分な成果を挙げていないという部分は期待を下回っている。これらを合わせて総合的に判断して、期待される水準内にあると考える。

## 観点 2-2 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

### 2-2-(1) 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業成果の状況

#### 2-2-(1)-① 進路の全般的な状況

修士課程修了者は、半数以上が博士課程に進学している。博士課程修了者は医学府特有の事情から大部分が医師やその他の医療職国家資格を持つ学生であり（毎年 100 人前後）、彼らはほとんどが医療系職種に従事している。大学等において教育的立場に就く者もいる。医学専攻では医療職国家資格を持たない入学者も毎年 30 人前後おり、彼らの多くは企業、学術機関等の研究的職種に従事しており医学専攻の目的に沿った教育成果が十分に上がっていることを示している。

#### 2-2-(1)-② 就職の状況

##### 1) 就職希望者の就職率及び就職先（資料 65、66）

修士課程修了者については、就職希望者の就職決定率はほぼ 100%である。博士課程修了者就職希望者の就職決定率は 95%程+度であり、大学・研究機関に教員・研究者を輩出している。博士研究員（ポスドク）に採用されるものも毎年 20 人以上で、海外の大学への就職も散見され、国際的に通用する教育体制の成果であると考ええる。

##### ○資料 65 学部・研究科等（学部卒業生及び大学院修士課程の修了者）ごとの就職希望者の就職率

(修士課程)

データ種別	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
就職者数	46	40	25	43	43
就職希望者数	46	41	26	43	48
就職率	100.0%	87.0%	96.2%	100.0%	89.6%

出典：卒業修了生進路調査

(博士課程)

データ種別	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
就職者数	105	92	89	78	78
就職希望者数	107	116	93	82	84
就職率	98.1%	79.3%	95.7%	95.1%	92.9%

出典：卒業生進路調査

## ○資料 66 就職先（具体名）

(修士課程)

年度	企業名
22	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院、長崎市職員、祐徳薬品工業株式会社、産業医科大学病院、熊本大学医学部附属病院、株式会社日立ハイテクノロジーズ、株式会社千代田テクノ、株式会社リクルート、日本調剤、日本光電、慶應義塾大学病院、小野薬品工業（株）、富士電機ホールディングス株式会社、安田女子大学、国立病院機構独立行政法人肥前精神医療センター、国立病院機構九州医療センター附属福岡看護助産学校、国立大学法人鹿児島大学、国家公務員共済組合連合会浜の町病院、千葉県がんセンター、医療法人福西会福西会病院、佐々木食品工業株式会社、本学病院 他
23	財団法人メディポリス医学研究財団、財団法人 福岡市健康づくり財団、社団法人福岡市医師会臨床検査センター、産業医科大学病院、獨協大学、熊本大学医学附属病院、株式会社麻生飯塚病院、株式会社ヤクルト、東京医科歯科大学医学部附属病院検査部、日本赤十字社長崎原爆病院、日本製粉株式会社、広島市病院事業局、和歌山県農業協同組合連合会、和光純薬工業株式会社、千鳥橋病院、千早病院、医療法人社団高邦会福岡山王病院、京都府立医科大学大学院法医学教室、京都大学医学部附属病院、本学病院、九州厚生年金病院、久留米大学病院、バイエル薬品株式会社
24	長崎市立市民病院、福岡大学筑紫病院、社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院、独立行政法人福岡市立病院機構福岡市民病院、株式会社電通、株式会社東洋新薬、東芝メディカルシステムズ株式会社、日本イーライリリー、慶應義塾大学病院、帝人株式会社、大阪大学医学部附属病院、大塚製薬株式会社、共済組合連合会浜の町病院、博多駅前かしわざクリニック、兵庫医科大学、佐賀国際重粒子線がん治療財団、佐賀県立病院、本学病院、本学先端医療イノベーションセンター、久留米大学病院、エーザイ株式会社
25	アステラス製薬株式会社、ロシュ・ダイアグノスティクス、久留米大学病院、九州中央病院、九州国際重粒子線ガン治療センター、本学病院、京都大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館、公立大学法人福岡県立大学、兵庫医科大学病院、北九州市病院局、国家公務員共済組合連合会虎ノ門病院、大阪大学医学部附属病院、慶應義塾大学病院、東京大学医学部附属病院、東邦大学医療センター大森病院、株式会社 JIMOS、株式会社フリップスエレクトロニクスジャパン、株式会社日本ウィルテックソリューション、独立行政法人国立病院機構関門医療センター、福岡大学筑紫病院、稲畑産業、飯塚市立病院、飯塚病院
26	本学病院、福岡大学病院、公立学校共済組合九州中央病院、名古屋大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、九州国際重粒子線がん治療センター、社会医療法人製鉄記念八幡病院、アステラス製薬（株）、山口大学医学部附属病院、東芝メディカルシステムズ（株）、帝京大学医学部附属溝口病院、浜の町病院、（独）国立病院機構九州グループ、長瀬ランダウア（株）、WDB エウレカ（株）、（株）ティーガイア、医療法人社団シマダ嶋田病院、国立病院機構近畿グループ、恵生会アプローズタワークリニック、IVF 詠田クリニック、大分大学医学部附属病院、ヤンセンファーマ（株）、富士フィルムメディカル（株）、長崎大学病院、京都大学医学部附属病院、鹿児島県立病院局、テクノプロ・R&D 社、一般社団法人福岡市医師会、（有）コミュニケーションデザイン研究所、相生会宮田病院、国立病院機構関門医療センター、聖路加国際大学、医療法人社団豊泉会

(博士課程)

年度	企業名
22	Havard 大学医学院、麻生飯塚病院、高知女子大学、聖マリア病院、陽和病院、遠賀中間医師会おんが病院、蜂須賀病院、福岡赤十字病院、福岡市民病院、県立宮崎病院、直方中央病院、理化学研究所、独立行政法人医薬品医療機器総合機構、熊本保健科学大学学科長、熊本保健科学大学、済生会福岡総合病院、済生会福岡第二病院、浜の町病院、東京都福祉保健局、掖済会門司病院、愛知県がんセンター、広島赤十字病院、広島日赤病院、山王病院、山口赤十字病院、小倉医床センター、宇佐高田医師会病院、天神光安整形外科クリニック、大浜第一病院、大塚製薬株式会社、大分医療センター 他
23	産業医科大学、株式会社ピーシーエル、九州中央病院 防府消化器病センター、長崎大学、西福岡病院、自衛隊関連病院、総合メディカル株式会社、福岡赤十字病院、福岡歯科大学、産業医科大学病院、済生会福岡総合病院、浜の町病院、松山赤十字病院、東京大学、東京医科歯科大学病院、旭化成ファーマ、広島赤十字・原爆病院、山口赤十字病院、小川内科胃腸科医院、小倉医療センター、宇佐高田医師会病院、大阪大学微生物病研究所、大阪大学、大阪回生病院、大分県立病院、外山胃腸病院、国立国際医療研究センター、国立がん研究センター、原三信病院、博愛病院、北九州市立医療センター、佐賀県立好生館、本学病院
24	福岡大学医学部看護学科、産業医科大学、日本学術振興会特別研究員、学校法人 純真学園大学、学校法人 純真学園大学、本学病院 ARO 次世代医療センター、本学大学院医学研究院、Syarief Hidayatullah Islamic State University、CHILD HEALTH UNIVERSITY OF INDONESIA、麻生飯塚病院、順天堂大学、防衛医科大学校防衛医学研究センター、製鉄記念八幡病院、藤田保健衛生大学病院、聖マリア病院、福岡歯科大学、福岡東医療センター、福岡東医療センター、福岡大学病院、福岡医師会成人病センター、白十字病院、熊本市市民病院、済生会飯塚嘉穂病院、済生会福岡総合病院、浜の町病院、沼津市立病院、株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン、松山赤十字病院、東京大学医学部
25	本学大学院医学研究院保健学部門、本学病院、学校法人純真学園大学、愛知医科大学病院、純真学園大学、ナガラ医院、マサチューセッツ工科大学、上智福岡中学高等学校、下関市立市民病院、中国天津市医科大学病院、乙金病院、九州ガンセンター、九州中央病院、九州医療センター、本学、本学医学研究院、本学大学院医学研究院脳神経外科学、本学病院、井上病院、佐賀大学医学部、倉敷中央病院、原土井病院、国立病院機構、国立病院機構九州医療センター、国立病院機構小倉医療センター、国立病院機構福岡病院、慶応義塾大学、掖済会門司病院、日本赤十字社福岡赤十字病院、木村病院、松山赤十字病院、波多江外科医院、浜ノ町病院、済生会福岡病院、溝口病院、社会保険稲築病院、福岡大学筑紫病院内分泌糖尿病内科、福岡市立コドモ病院、福岡整形外科病院、福岡病院、福岡赤十字病院、製鉄記念八幡病院、麻生飯塚病院
26	本学病院、本学、北九州市立医療センター、松山赤十字病院、福岡大学病院、福岡赤十字病院、飯塚病院、国立病院機構九州がんセンター 他

ポスドク採用数

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
採用人数	25	26	20	30	22

## 2-2-(1)-③ 進学状況

修士課程からの進学率及び進学先(学外)は資料 67、68 に示す。特に、医科学修士課程修了者の博士課程進学率は漸増しており 26 年度は 57.9%である。その半数以上が学内進学しており、一貫した教育体制が機能している。

## ○資料 67 進学率

(修士課程から博士課程への進学)

専攻名	データ種別	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
医科学専攻	博士課程進学者数	10	4	11	10	11
	卒業・修了者数	22	8	19	18	19
	博士課程進学率	45.5%	50.0%	57.9%	55.6%	57.9%
保健学専攻	博士課程進学者数	0	1	6	3	3
	卒業・修了者数	20	23	27	27	30

	博士課程進学率	0%	4.3%	22.2%	11.1%	10%
出典：卒業修了生進路調査						

## ○資料 68 医学系学府修士課程から学外進学先（具体名）

年度	学外進学先
22	千葉大学大学院医学研究院博士課程
23	博士課程転学
24	應慶義塾大学医学部
25	北海道大学
26	札幌医科大学
	近畿大学
	統合研究院大学院大学
出典：平成 21 年度～26 年度 卒業修了生進路調査（学務部）	

## 2-2-(1)-④ その他の卒業・修了生の活動の状況

## 1) 論文の投稿状況

海外の一流英文誌にも多数の論文を投稿しており、平成 26 年度インパクトファクター 5 以上～10 未満 22 編、10 以上 7 編と論文の質も高水準である（資料 69）。

## ○資料 69 研究活動の実績や成果を判断できる論文の投稿状況等

専攻	論文の投稿状況等（学生による論文）
医学専攻、 医科学専攻	博士課程学生の研究活動の実績や成果を示す論文の投稿・学会発表の実績は、国内雑誌のみならず、国外の一流英文誌への投稿も数多く認められ、高い水準を示している。平成 26 年度学位論文実績（総数 88 編）：インパクトファクター 5 以上～10 未満 22 編、10 以上 7 編
保健学専攻	博士課程学生の研究活動の実績や成果を示す論文の投稿・学会発表の実績は、国内の雑誌のみならず、国外の雑誌へ投稿する論文も多数認められ、高い水準を示している。
医療経営・ 管理学専攻	医療経営・管理を改善するための問題解決型の論文を継続的に発表しており、学会からの受賞も受けている。

## 2-2-(1)-⑤ 分析のまとめ

以上のように、進路・就職状況等の状況から判断される在学中の学業の成果の状況は、総合的に見て良好である。海外の一流英文誌にも多数の論文を投稿しており、その内容も高水準である。

したがって、総合的に判断すると学習成果が上がっていると評価できる。

## 2-2-(2) 在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

## 2-2-(2)-① 卒業・修了生に対する意見聴取の結果

## 1) 全学共通フォーマットによる卒業・修了生に対する意見聴取の結果（資料 70）

医学系学府の教育目的に直接沿った項目については全てにおいては肯定的評価であった。特に、未知の問題に取り組む姿勢、他人に自分の意図を明確に伝える能力、討論する能力、分析的に考察する能力など、医学系学府が最も獲得してもらいたい項目で非常に高い肯定的評価を得ている。

○資料 70 卒業・修了生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の結果（全学共通フォーマットによる Web アンケート調査

## 問 1 「向上した能力について」

次の能力について向上したか	大いに向上した	少し向上した	どちらとも言えなかった	あまり変わらなかった	全く変わらなかった	該当なし
英語の運用能力	3	18	14	7	4	0
情報処理（コンピュータやインターネットの活用）の能力	10	22	12	3	1	0
未知の問題に取り組む姿勢	16	22	7	3	0	0
他人に自分の意図を明確に伝える能力	11	24	12	1	0	0
討論する能力	9	21	13	4	1	0
自分の専門分野に対する深い知識や関心	22	21	4	1	0	0
分析的に考察する能力	12	29	6	1	0	0
新たなアイデアや解決策を見つけ出す能力	8	20	14	5	1	0
記録、資料、報告書等の作成能力	17	16	15	0	0	0

## 問 2 「学習目標の達成について」

学習目標を達成しているか	達成できた	少し達成できた	どちらとも言えなかった	あまり達成できなかった	達成できなかった	該当なし
専門の教育	16	23	8	1	0	0
研究活動	20	20	8	0	0	0
論文作成	20	17	10	0	0	1

## 問 3 「満足度について」

学習の満足度	満足だった	少し満足だった	どちらとも言えなかった	少し不満だった	不満だった	該当なし
専門の教育	14	21	9	4	0	0
研究活動	19	15	10	4	0	0
論文作成	18	16	10	4	0	0

## 問 4 「修得した学習成果の有用性について」

次のことは修了後に役に立っているか	とても役に立っている	役に立っている	どちらとも言えない	役に立っていない	全く役に立っていない	該当なし
専門の教育	23	18	6	1	0	0
研究活動	22	16	7	3	0	0
論文作成	19	17	7	5	0	0

## 2-2-(2)-② 就職先・進学先等の関係者に対する意見聴取

## 1) 全学共通フォーマットによる就職先・進学先等の関係者への意見聴取

ほぼ全ての項目において肯定的な評価を得ているが、特に専門分野及びそれに関連する他領域もの基礎知識に対する評価が高い(資料71)。

○資料71 就職先・進学先等の関係者への意見聴取(アンケート、懇談会、インタビュー等)結果(全学共通フォーマットによるWebアンケート調査)

就職先における現在の能力	大変優れている	優れている	どちらとも言えない	劣る	極めて劣る	該当なし
専門分野の知識がしっかり身につけている	32	27	4	1	0	1
幅広い教養・知識を身につけている	25	31	8	0	0	1
専門分野に関連する他領域の基礎知識が身につけている	24	34	5	1	0	1
知識や情報を集めて自分の考えを導き出す能力がある	31	25	7	1	0	1
チームを組んで特定の課題に適切に取り組む能力がある	27	27	9	1	0	1
ディベート、プレゼンテーション能力がある	23	29	10	1	0	2
国際コミュニケーション能力、異文化理解能力がある	19	22	20	3	0	1
積極的でリーダーシップがとれる	21	32	10	1	0	1
実務能力がある	28	30	5	0	0	2
期待通りの活躍をしている	32	24	7	0	0	2

## 2) 部局独自の就職先・進学先等の関係者に対する意見聴取

様々な専門的知識や能力に対する評価は概ね高い(資料72)。

○資料72 就職先や進学先等の関係者への意見聴取(アンケート、懇談会、インタビュー等)の概要(大学院)

専攻名	就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要
医科学専攻	○平成25年度の調査の結果では、この就職先や進学先等の関係者への意見聴取の結果からは、修了者の現在の様々な能力について8割以上が優れていると回答しており、本学府における学習成果を評価する声が強いです。
保健学専攻	本学府では、就職先や進学先等の関係者へのアンケートを実施している。その結果からは、「専門分野の知識」「専門分野に関連する他領域の知識」「幅広い教養・知識」が「身につけている」ことについて80～90%が肯定的であり、本学府における学習成果を評価する声が強いです。また、「仕事に対する責任感や使命感が強い」「積極的でリーダーシップがとれる」など社会的に評価する声も強いです。
医療経営・管理学専攻	3年おきに卒業生アンケート調査により、就職先・進学先等への意見聴取を行っている。現場での直接仕事に役に立つ教育のニーズが高いことから、卒業成果物においてはできるだけ現実の問題に対する解決能力を育むテーマが選択されるようになってきている。

## 2-2-(2)-③ 分析のまとめ

以上のように、在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果は、総合的に見て大変良好である。

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

医学系学府では教育や研究に集中できる環境が構築されており、就職先アンケート等で高い評価を得ている。国家資格を持たない入学生がほとんどの医科学修士においては、特に医学生命科学研究者の養成に注力しており、その成果が博士課程への高い進学率となっている。これらのことから関係者から期待される水準を上回っていると考えられる。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- ①専門性の確保と幅広い研究領域の連携を可能にする大学院教育体制の確立（観点1-1）医学博士課程専攻を医学専攻に一本化し、教員及び学生の基礎医学研究と臨床医学研究の連携・融合を促進できる体制へ改編した。その上で、平成26年度からはそれらを4コースに再編し専門性と学際性をより保証する体制へ改編している。
- ②大学の教育研究改革資金を利用した新組織設置による大学院教育体制の充実（観点1-2）本学の「大学改革活性化制度」によって2組織を新設した。
- ③外部資金による社会のニーズに適合したコースの設置（観点2）  
文部科学省「大学改革推進事業」に採択された取組「九州がんプロフェッショナル養成プラン」では、本学大学院医学研究院に九州連携臨床腫瘍学講座、大学院博士課程に「がん専門医師養成コース」を設置した。5年のプログラム終了後はその成果が認められ、5年間のプログラムとして平成24年度に「九州がんプロ養成基盤推進プラン」が文部科学省から選定され発展的に継続している。

このように学内外の資金を積極的に利用し時代と社会のニーズに合わせて、新たな大学院教育システムが展開できており、大学院教育の実施体制の水準は大きく改善している。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

該当なし